





## 『公開実習ガイド』について

本ガイドには、「国立大学法人臨海臨湖実験所長会議」に属する各実験所・センターが全国の大学生及び大学院生を対象に開講する「公開臨海臨湖実習」の実施計画書を掲載しています。公開臨海臨湖実習では、フィールドでの生物観察の他、海産・陸水生物の採集、分類、同定、標本作製、さらに海産・陸水生物の生理学、発生学、生化学、分子生物学、生態学等の最新の実験手法の習得、などの各実験所・センター毎に様々なプログラムが準備されています。また、複数の実験所・センターの教員が連携し、「合同実習」の形式で開催するプログラムも組まれています。本ガイド掲載の実施計画書をご覧になる際には、下記の事項にも留意してください。

**受講資格：**主に理系学部生が対象ですが、学年指定など各実習で異なっています。

**経費：**宿泊費、食費などを含みます。

**授業料の徴収：**公立大学・私立大学の学生への対応は各大学で異なります。

**単位認定：**受講生が所属する大学および実習開催校毎に異なるので、実施計画書を参照の上、所属大学の教務係等で確認してください。

**応募と選抜方法：**応募方法、必要書類、締切日、選抜方法、連絡手段などは、実験所・センター個別の募集案内で確認してください。

なお、各実習の履修申し込みに際して不明な点などがあれば、各実験所・センター、あるいは開催大学の学部教務係などにご確認ください。なお、公開臨海臨湖実習に関する情報は公開臨海実習ホームページ (<http://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/station/plan2.html>) で公開し、随時更新しています。

令和8年4月1日

国立大学法人臨海臨湖実験所長会議議長  
東北大学・大学院生命科学研究科  
熊野 岳

令和8年度 公開臨海臨湖実習取りまとめ当番校  
名古屋大学 菅島臨海実験所  
五島 剛太

## 目次

<b>北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 厚岸臨海実験所</b> .....	<b>5</b>
国際公開臨海実習Ⅲ .....	5
国際公開臨海実習Ⅳ .....	6
海洋生態学 .....	7
道東の水域生態系と人間社会のつながり .....	8
<b>北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 室蘭臨海実験所</b> .....	<b>9</b>
国際公開臨海実習Ⅰ .....	9
国際公開臨海実習Ⅱ .....	10
海藻類の分類・発生・細胞生物学 .....	11
早春の北海道南部での海藻採集と培養技術の習得 .....	12
<b>東北大学 大学院生命科学研究所附属 浅虫海洋生物学教育研究センター</b> .....	<b>13</b>
北の海, 潮間帯のフィールド生物学 .....	13
棘皮動物ウニの発生機構および脊索動物ホヤ胚の発生機構 .....	14
<b>新潟大学 佐渡自然共生科学センター 臨海実験所</b> .....	<b>15</b>
佐渡・国際臨海実習コース「International Marine Biology Course」 .....	15
佐渡・海洋生物学コース「海洋生物多様性実習」 .....	16
佐渡・森里海の連携学コース「森里海をつなぐ野外生態学実習」 .....	17
佐渡・発生／行動学コース「動物発生／行動学臨海実習」 .....	18
<b>金沢大学 環日本海域環境研究センター 臨海実験施設</b> .....	<b>19</b>
アカテガニに着目した海岸環境の保全に関する実習 .....	19
能登半島の海洋動物相に関する実習 .....	20
<b>信州大学 理学部附属湖沼高地教育研究センター 諏訪臨湖実験所</b> .....	<b>21</b>
臨湖実習①（湖沼生態学実習） .....	21
臨湖実習②【リモート形式】（茨城大学・信州大学合同臨湖実習） .....	22
臨湖実習③（湖沼環境調査実習） .....	23
臨湖実習④（分析入門実習） .....	24
<b>茨城大学 GLEC 水圏環境フィールドステーション</b> .....	<b>25</b>
公開臨湖実習1「巨大湖の生態系と環境問題－霞ヶ浦での調査・実験から理解する」 .....	25
公開臨湖実習2「追跡！巨大ナマズ湖沼の外来生物問題の最前線」 .....	26
公開臨湖実習3「堆積環境調査実習－地層や地形の形成プロセスから過去を知るための観察・分析法」 .....	27
公開臨湖実習4「巨大湖の生物多様性に迫る－実践的なフィールドワークと分子生物学的手法から」【リモート形式】 .....	28
公開臨湖実習5（茨城大学・信州大学合同臨湖実習）「さまざまな湖沼で環境計測・生物調査をしてみよう」【リモート形式】 .....	29

<b>お茶の水女子大学 湾岸生物教育研究所</b> .....	<b>30</b>
海産動物の生活史・生態と生殖発生研究の展開 .....	30
海の自然史学的研究 .....	31
<b>東京大学 大学院理学系研究科附属 臨海実験所</b> .....	<b>32</b>
A コース:海洋動物の多様性・個体発生と系統発生 .....	32
B コース:ラボとフィールドで学ぶ海産動物の発生と共生 .....	33
<b>筑波大学 下田臨海実験センター</b> .....	<b>34</b>
伊豆半島沿岸の生態と多様性 .....	34
海の生物と環境の相互作用 .....	35
<b>名古屋大学 大学院理学研究科附属 菅島臨海実験所</b> .....	<b>36</b>
海産無脊椎動物の多様性 .....	36
<b>京都大学 フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所</b> .....	<b>37</b>
国際臨海実習「Functional Morphology and Evolutionary Biology of Marine Invertebrates」 .....	37
自由課題研究 .....	38
海産無脊椎動物分子系統学実習 .....	39
藻類と海浜植物の系統と進化 .....	40
沿岸域生態系多様性実習 .....	41
<b>神戸大学 内海域環境教育研究センター マリンサイト</b> .....	<b>42</b>
専門 A コース「海産藻類の生物学」 .....	42
専門 B コース「淡水域-河口域の生物群集と生態」 .....	43
基礎コース「閉鎖性海域の沿岸環境」 .....	44
専門 C コース「大阪湾の水質と海底堆積物」 .....	45
<b>岡山大学 理学部附属 牛窓臨海実験所</b> .....	<b>46</b>
瀬戸内海潮間帯の海洋動物 .....	46
<b>広島大学 瀬戸内 CN 国際共同研究センター ブルーイノベーション部門 臨海実験所</b> .....	<b>47</b>
公開臨海実習《生物モニタリングコース》 .....	47
公開臨海実習《進化発生・オミクス解析コース》 .....	48
公開臨海実習《進化発生・ゲノム編集コース》 .....	49
<b>島根大学 生物資源科学部附属生物資源教育研究センター 海洋生物科学部門 (隠岐臨海実験所)</b> .....	<b>50</b>
隠岐臨海 A コース「隠岐の島の自然と海洋生物」 .....	50
隠岐臨海 B コース「海洋生物の繁殖行動と父性解析」 .....	51
隠岐臨海 C コース「隠岐フルコース」 .....	52
<b>高知大学 総合研究センター海洋部門 海洋生物研究教育施設</b> .....	<b>53</b>

黒潮流域の海産動植物の生物学 .....	53
<b>熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 合津マリンステーション .....</b>	<b>54</b>
大学公開実習 A (海洋環境生物学) .....	54
大学公開実習 B (古生物学・地層学) .....	55
大学公開実習 C (文理融合：化石・古墳・現世) .....	56
大学公開実習 D (行動生態学・生物多様性学) .....	57
<b>九州大学 理学部附属 天草臨海実験所 .....</b>	<b>58</b>
沿岸海洋生態系の環境と生物多様性・生態学コース .....	58
沿岸海洋生態系の環境と生物多様性・基礎コース .....	59
<b>琉球大学 熱帯生物圏研究センター 瀬底研究施設 .....</b>	<b>60</b>
サンゴ礁生物学実習 .....	60

# 各大学施設の所在地



## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	国際公開臨海実習 III		
実習内容	<p>本プログラムは、主に大学院の修士課程・博士課程、および学部専門課程に在籍する学生が、北海道大学厚岸臨海実験所の実験設備とフィールドを利用して英語で実施する実習である（日本語によるサポートあり）。厚岸を含む北海道東部太平洋側の沿岸域はアマモ場、コンブ藻場、干潟、塩性湿地など、日本の他地域では開発により縮小した貴重な沿岸生態系が広く残存している。この実習では、特に植物プランクトン、岩礁潮間帯とコンブ藻場、および海洋生態系と陸域生態系の関連性に焦点をあてて学ぶ。</p> <p>① 実習観測船「みさご丸」による沿岸域の海洋観測と植物プランクトン観察                  ② 陸域からの物質流入が海洋生態系に与える影響に関する評価                  ③ 厚岸湾の岩礁潮間帯とコンブ藻場の生物群集                  ④ グループでの課題研究・成果報告</p>		
実習内容キーワード	沿岸生態系、プランクトン、陸と海の相互作用、岩礁潮間帯、コンブ藻場		
担当教員氏名・所属・役職名	仲岡雅裕・北方生物圏フィールド科学センター・教授 伊佐田智規・北方生物圏フィールド科学センター・准教授 鈴木一平・北方生物圏フィールド科学センター・特任助教		
協力教員氏名・所属・役職名	Jillian LS OOI・マラヤ大学・准教授 Yang Amri AFFENDI ・マラヤ大学・研究調査官		
対象学生・学年	学部 3～4 年生、 および大学院生	開講期間	7 月 11 日(土)～15 日(水) (11 日夕方集合、15 日午前解散)
開講大学・施設名	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所		
施設の住所	〒088-1113 北海道厚岸郡厚岸町愛冠 1 番地		
電話	0153-52-2056	F a x	0153-52-2042
e-mail	nakaoka@fsc.hokudai.ac.jp	Web Site	http://www.fsc.hokudai.ac.jp/akkeshi/
交通案内	釧路空港から空港連絡バスで約 45 分、JR 釧路駅下車。釧路駅から JR で厚岸駅まで約 50 分、駅からタクシーで臨海実験所まで 17 分約 2,000 円。JR 厚岸駅からバス（本数少ない）では 15 分「国泰寺」下車、実験所まで徒歩 25 分。札幌（新千歳空港）からは JR で釧路駅まで特急で約 4 時間、高速バスで約 5 時間。		
費用	宿泊費と食費、その他雑費を含めて合計約 10,000 円。		
授業科目名	特別実習（国際公開臨海コースⅢ）		
単位数	1	定員数	8
授業料の徴収について	国立大学および協定のある公立私立大学の学生は所定の書式による申請により授業料は不徴収とする。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	定員を超えた場合は書類選考を行う。申込み切は実習開始日の 2 か月前。定員に満たない場合は追加募集を行う（実習開始日の 1 か月前まで）。また、定員に余裕がある場合は、学部 1、2 年生の受講も受け付ける。		
選抜結果連絡法	本人に郵送（連絡可能者は E-mail）で仮通知。後に理学部から正式通知を郵送。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	国際公開臨海実習 IV		
実習内容	<p>本プログラムは、主に大学院の修士課程・博士課程、および学部専門課程に在籍する学生が、北海道大学厚岸臨海実験所の実験設備とフィールドを利用して英語で実施する実習である（日本語によるサポートあり）。厚岸を含む北海道東部太平洋側の沿岸域はアマモ場、コンブ藻場、干潟、塩性湿地など、日本の他地域では開発により縮小した貴重な沿岸生態系が広く残存している。この実習では、特に海草藻場の生物多様性、長期変動、および海洋哺乳類の行動生態に焦点をあてて学ぶ。</p> <p>① アマモ場における海草生物群集の調査・採集                  ② 厚岸湾の海草藻場における長期モニタリング                  ③ 海洋哺乳類の行動観察                  ④ グループでの課題研究・成果報告</p>		
実習内容キーワード	沿岸生態系、長期モニタリング、生物多様性、生態系機能、生態系サービス、海洋哺乳類		
担当教員氏名・所属・役職名	仲岡雅裕・北方生物圏フィールド科学センター・教授 伊佐田智規・北方生物圏フィールド科学センター・准教授 鈴木一平・北方生物圏フィールド科学センター・特任助教		
協力教員氏名・所属・役職名	Jillian LS OOI・マラヤ大学・准教授 Yang Amri AFFENDI ・マラヤ大学・研究調査官		
対象学生・学年	学部 3～4 年生、 および大学院生	開講期間	7 月 15 日（水）～19 日（日） （15 日夕方集合、19 日午前解散）
開講大学・施設名	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所		
施設の住所	〒088-1113 北海道厚岸郡厚岸町愛冠 1 番地		
電話	0153-52-2056	F a x	0153-52-2042
e-mail	nakaoka@fsc.hokudai.ac.jp	Web Site	http://www.fsc.hokudai.ac.jp/akkeshi/
交通案内	釧路空港から空港連絡バスで約 45 分、JR 釧路駅下車。釧路駅から JR で厚岸駅まで約 50 分、駅からタクシーで臨海実験所まで 17 分約 2,000 円。JR 厚岸駅からバス（本数少ない）では 15 分「国泰寺」下車、実験所まで徒歩 25 分。札幌（新千歳空港）からは JR で釧路駅まで特急で約 4 時間、高速バスで約 5 時間。		
費用	宿泊費と食費、その他雑費を含めて合計約 10,000 円。		
授業科目名	特別実習（国際公開臨海コースIV）		
単位数	1	定員数	8
授業料の徴収について	国立大学および協定のある公立私立大学の学生は所定の書式による申請により授業料は不徴収とする。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	定員を超えた場合は書類選考を行う。申込〆切は実習開始日の 2 か月前。定員に満たない場合は追加募集を行う（実習開始日の 1 か月前まで）。また、定員に余裕がある場合は、学部 1、2 年生の受講も受け付ける。		
選抜結果連絡法	本人に郵送（連絡可能者は E-mail）で仮通知。後に理学部から正式通知を郵送。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	海洋生態学		
実習内容	<p>寒流域に位置する厚岸湖・厚岸湾の沿岸生物群集を対象に、野生生物の調査を体験することにより、海洋生態学の研究手法を習得する。特に下記の項目について、グループによるフィールド調査と室内での実験・解析を行い、海洋生態系についてさまざまな視点から理解を深めることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 沿岸域の海洋環境と植物プランクトン</li> <li>2. 岩礁潮間帯の底生生物の多様性と垂直分布</li> <li>3. アマモ場の生物多様性と生態系機能</li> <li>4. 海洋哺乳類と海鳥の行動観察</li> </ol>		
実習内容キーワード	沿岸生態系、生物群集、生物多様性、寒流域、野外調査解析、潮間帯、アマモ場、植物プランクトン、海洋哺乳類・海鳥、干潟		
担当教員氏名・所属・役職名	仲岡雅裕・北方生物圏フィールド科学センター・教授 伊佐田智規・北方生物圏フィールド科学センター・准教授 鈴木一平・北方生物圏フィールド科学センター・特任助教		
協力教員氏名・所属・役職名	田中義幸・八戸工業大学・教授		
対象学生・学年	学部 1～4 年生	開講期間	8 月 22 日（土）～27 日（木） (22 日夕方集合、27 日午前解散)
開講大学・施設名	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所		
施設の住所	〒088-1113 北海道厚岸郡厚岸町愛冠 1 番地		
電話	0153-52-2056	F a x	0153-52-2042
e-mail	nakaoka@fsc.hokudai.ac.jp	Web Site	http://www.fsc.hokudai.ac.jp/akkeshi/
交通案内	釧路空港から空港連絡バスで約 45 分、JR 釧路駅下車。釧路駅から JR で厚岸駅まで約 50 分、駅からタクシーで臨海実験所まで 17 分約 2,000 円。JR 厚岸駅からバス（本数少ない）では 15 分「国泰寺」下車、実験所まで徒歩 25 分。札幌（新千歳空港）からは JR で釧路駅まで特急で約 4 時間、高速バスで約 5 時間。		
費用	宿泊費と食費、その他雑費を含めて合計約 12,000 円。		
授業科目名	特別実習（海洋生態学コース）		
単位数	1	定員数	12
授業料の徴収について	国立大学および協定のある公立私立大学の学生は所定の書式による申請により授業料は不徴収とする。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	定員を超えた場合は書類選考を行う。申込〆切は実習開始日の 2 か月前。定員に満たない場合は追加募集を行う（実習開始日の 1 か月前まで）。		
選抜結果連絡法	本人に郵送（連絡可能者は E-mail）で仮通知。後に理学部から正式通知を郵送。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	道東の水域生態系と人間社会のつながり		
実習内容	<p>冷温帯～寒流域に属する道東地方の特徴的な水域環境（河川、湿原、干潟、アマモ場、コンブ林、沿岸海域）の生物多様性と生態系機能、さらには人間活動に与える恵み（生態系サービス）について、それぞれの水域環境を実際に観察することで、その関連性について考察することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 河川を通じた陸と海の相互作用</li> <li>2. 干潟・アマモ場・コンブ藻場の生物多様性と生態系機能</li> <li>3. 沿岸親潮域のプランクトン生態系</li> <li>4. 海洋哺乳類の行動観察</li> </ol>		
実習内容キーワード	生態系のつながり、生物群集、冷温帯寒流域、野外調査解析、アマモ場、プランクトン、有色溶存有機物（CDOM）		
担当教員氏名・所属・役職名	仲岡雅裕・北方生物圏フィールド科学センター・教授 伊佐田智規・北方生物圏フィールド科学センター・准教授 鈴木一平・北方生物圏フィールド科学センター・特任助教		
協力教員氏名・所属・役職名	西川淳・東海大学海洋学部・教授		
対象学生・学年	学部 1～4 年生	開講期間	8 月 30 日（日）～9 月 4 日（金） (30 日夕方集合、4 日午前解散)
開講大学・施設名	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所		
施設の住所	〒088-1113 北海道厚岸郡厚岸町愛冠 1 番地		
電話	0153-52-2056	F a x	0153-52-2042
e-mail	nakaoka@fsc.hokudai.ac.jp	Web Site	http://www.fsc.hokudai.ac.jp/akkeshi/
交通案内	釧路空港から空港連絡バスで約 45 分、JR 釧路駅下車。釧路駅から JR で厚岸駅まで約 50 分、駅からタクシーで臨海実験所まで 17 分約 2,000 円。JR 厚岸駅からバス（本数少ない）では 15 分「国泰寺」下車、実験所まで徒歩 25 分。札幌（新千歳空港）からは JR で釧路駅まで特急で約 4 時間、高速バスで約 5 時間。		
費用	宿泊費と食費、その他雑費を含めて合計約 12,000 円。		
授業科目名	特別実習（基礎水圏生態学コース）		
単位数	1	定員数	10
授業料の徴収について	国立大学および協定のある公立私立大学の学生は所定の書式による申請により授業料は不徴収とする。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	定員を超えた場合は書類選考を行う。申込〆切は実習開始日の 2 か月前。定員に満たない場合は追加募集を行う（実習開始日の 1 か月前まで）。		
選抜結果連絡法	本人に郵送（連絡可能者は E-mail）で仮通知。後に理学部から正式通知を郵送。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	国際公開臨海実習 I		
実習内容	<p>基礎的な海洋生物学・生態学を既習した国内外の学生を対象に、先進的な内容を課題とした発展的かつ分野統合的な実習を行う。寒流生態系に特徴的な海藻類を対象として、細胞学、生理学、生態学、保全生物学など異なる分野にわたる課題に取り組むことにより、海洋生物学・生態学の最先端の知識を身につけると共に、問題解決型の研究課題への取り組み方を習得する。この実習は、豊かな海藻植生をもつ室蘭において、海藻の分類、系統関係、分子系統解析の具体的な手法をフィールド調査と室内実験から学ぶことを目的とする。</p> <p>1) 海藻採集と海藻おし葉標本の作製 2) 海藻の形態観察 3) 分子系統解析 4) グループワークによる課題研究・成果報告</p> <p>この実習は英語で行うが日本語によるサポート有り。</p>		
実習内容キーワード	海藻類、形態観察、生物多様性、分子系統解析		
担当教員氏名・所属・役職名	長里千香子・北方生物圏フィールド科学センター・教授 市原健介・北方生物圏フィールド科学センター・准教授 寺内菜々・北方生物圏フィールド科学センター・特任助教		
協力教員氏名・所属・役職名	GIUSEPPE ZUCCARELLO・Victoria University of Wellington・教授 GWANG HOON KIM・Kongju National University・教授		
対象学生・学年	大学院生 (学部学生も可)	開講期間	6月12日(金)～6月15日(月) (12日昼1時、15日昼解散)
開講大学・施設名	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所		
施設の住所	〒051-0013 北海道室蘭市舟見町1丁目133番地31		
電話	0143-22-2846	F a x	0143-22-4135
e-mail	nagasato@fsc.hokudai.ac.jp	Web Site	http://www.fsc.hokudai.ac.jp/muroran/home.html
交通案内	JR室蘭本線の室蘭駅で下車。新千歳空港からもJRを利用できるが、高速バス(道南バス)を利用した方が料金は安い(市役所北で下車・予約制なので注意が必要)。室蘭駅・バス停留所からは徒歩(約10分)。		
費用	約4,000円(宿泊費・雑費・昼食代を含む)朝食・夕食は各自準備する(徒歩圏内にスーパー・コンビニ複数有り)。		
授業科目名	特別実習(国際公開臨海実習 I)		
単位数	1	定員数	4
授業料の徴収について	国公立大学の学生は所定の書式を申請することにより不徴収とする。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	原則として先着順とする。申し込み締め切りは実習開始日の2か月前。定員に満たない場合は追加募集を行う(実習開始日の1か月前まで)。		
選抜結果連絡法	E-mailで仮通知し、その後に理学部から正式通知を郵送。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	国際公開臨海実習 II		
実習内容	<p>基礎的な海洋生物学・生態学を既習した国内外の学生を対象に、先進的な内容を課題とした発展的かつ分野統合的な実習を行う。寒流生態系に特徴的な海藻類を対象として、細胞学、生理学、生態学、保全生物学など異なる分野にわたる課題に取り組むことにより、海洋生物学・生態学の最先端の知識を身につけると共に、問題解決型の研究課題への取り組み方を習得する。この実習は、豊かな海藻植生をもつ室蘭において、海藻類の生理生態学的特徴、海藻細胞の形態、生物間相互作用をフィールド調査と室内実験から学ぶことを目的とする。</p> <p>1) 海藻の形態観察 2) 海藻の受精・発生実験 3) 海藻の生態調査 4) 海藻の光合成色素の比較 5) グループワークによる課題研究・成果報告</p> <p>この実習は英語で行うが日本語によるサポート有り。</p>		
実習内容キーワード	海藻類、生態調査、形態観察、光合成色素、生物多様性		
担当教員氏名・所属・役職名	長里千香子・北方生物圏フィールド科学センター・教授 市原健介・北方生物圏フィールド科学センター・准教授 寺内菜々・北方生物圏フィールド科学センター・特任助教		
協力教員氏名・所属・役職名	GWANG HOON KIM・Kongju National University・教授 GIUSEPPE ZUCCARELLO・Victoria University of Wellington・教授		
対象学生・学年	大学院生 (学部学生も可)	開講期間	6月15日(月)～6月18日(木) (15日昼1時集合、18日昼解散)
開講大学・施設名	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所		
施設の住所	〒051-0013 北海道室蘭市舟見町1丁目133番地31		
電話	0143-22-2846	F a x	0143-22-4135
e-mail	nagasato@fsc.hokudai.ac.jp	Web Site	http://www.fsc.hokudai.ac.jp/muroran/home.html
交通案内	JR室蘭本線の室蘭駅で下車。新千歳空港からもJRを利用できるが、高速バス(道南バス)を利用した方が料金は安い(市役所北で下車・予約制なので注意が必要)。室蘭駅・バス停留所からは徒歩(約10分)。		
費用	約4,000円(宿泊費・雑費・昼食代を含む)朝食・夕食は各自準備する(徒歩圏内にスーパー・コンビニ複数有り)。		
授業科目名	特別実習(国際公開臨海実習 II)		
単位数	1	定員数	4
授業料の徴収について	国公立大学の学生は所定の書式を申請することにより不徴収とする。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	原則として先着順とする。申し込み締め切りは実習開始日の2か月前。定員に満たない場合は追加募集を行う(実習開始日の1か月前まで)。		
選抜結果連絡法	E-mailで仮通知し、その後に理学部から正式通知を郵送。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	海藻類の分類・発生・細胞生物学		
実習内容	<p>海藻類の生態、形態分類、発生、細胞観察を行うことで、沿岸域に生育する海藻類の特徴、季節消長、生活史を理解する。具体的には以下の内容の実習・講義を行う。</p> <p>1) 海藻の採集、標本作製の実習：海藻類を採集し、各種を同定後、さく葉標本を作製する。</p> <p>2) フィールド調査：海藻類の生態について調査する。</p> <p>3) 薄層クロマトグラフィーを用いた光合成色素の分離：採集した海藻を用いて、光合成色素の抽出およびクロマトグラフィーによる分離を行う。</p> <p>4) 細胞学実習：蛍光顕微鏡・透過型電子顕微鏡を用いて海藻類の細胞の特徴を理解する。</p> <p>講義：(1) 海藻類の有性生殖・発生・生活史 (2) 海藻類の光合成色素と特性 (3) 環境の変動と海藻類との関係</p>		
実習内容キーワード	海藻類、分類、野外調査、光合成色素、蛍光顕微鏡、電子顕微鏡		
担当教員氏名・所属・役職名	長里千香子・北方生物圏フィールド科学センター・教授 市原健介・北方生物圏フィールド科学センター・准教授 寺内菜々・北方生物圏フィールド科学センター・特任助教		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	学部学生	開講期間	8月25日(火)～8月29日(土) (25日夕方集合、29日昼解散)
開講大学・施設名	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所		
施設の住所	〒051-0013 北海道室蘭市舟見町1丁目133番地31		
電話	0143-22-2846	F a x	0143-22-4135
e-mail	nagasato@fsc.hokudai.ac.jp	Web Site	http://www.fsc.hokudai.ac.jp/muroran/home.html
交通案内	J R 室蘭本線の室蘭駅で下車。新千歳空港からも J R を利用できるが、高速バス(道南バス)を利用した方が料金は安い(市役所北で下車・予約制なので注意が必要)。室蘭駅・バス停留所からは徒歩(約10分)。		
費用	約4,500円(宿泊費・雑費・昼食代を含む)朝食・夕食は各自準備する(徒歩圏内にスーパー・コンビニ複数有り)。		
授業科目名	特別実習(海藻類の分類・発生・細胞生物学)		
単位数	1	定員数	8
授業料の徴収について	国公立大学の学生は所定の書式を申請することにより不徴収とする。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	原則として先着順とする。申し込み締め切りは実習開始日の2か月前。定員に満たない場合は追加募集を行う(実習開始日の1か月前まで)。		
選抜結果連絡法	E-mail で仮通知し、その後に理学部から正式通知を郵送。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	早春の北海道南部での海藻採集と培養技術の習得		
実習内容	<p>海藻類は季節ごとに採集される種類が異なる。北海道では早春に最も多くの海藻類が生育し、成熟期を迎えている。本実習では、北海道内で比較的温暖な南部にある室蘭で早春の海藻類の生態を調査し、形態分類・生理実験・培養技術・顕微鏡観察の習得を行う。実習を通して、海藻類の季節消長、生活史を理解し、沿岸海域を取りまく環境と様々な課題の解決に向けた取り組みについて議論を行う。具体的には以下の内容の実習・講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 海藻の採集、標本作製の実習：海藻類を採集し、各種を同定後、さく葉標本を作製する。</li> <li>2) 海藻の培養実習：培地作製、海藻生殖細胞の単離、単藻培養、無菌操作の手順を習得する。</li> <li>3) 海藻類の細胞観察法：蛍光顕微鏡や電子顕微鏡を使用した細胞観察方法を習得する。</li> <li>4) 海藻の光合成：色とりどりの海藻類を比較して、色素の機能や適応を考える。</li> </ol> <p>講義： (1) 海藻類の環境適応 (2) 多様な海藻類の生活史</p>		
実習内容キーワード	海藻類、生物多様性、生理実験、培地作製、単藻培養法、無菌操作法		
担当教員氏名・所属・役職名	長里千香子・北方生物圏フィールド科学センター・教授 市原健介・北方生物圏フィールド科学センター・准教授 寺内菜々・北方生物圏フィールド科学センター・特任助教		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	学部学生	開講期間	3月9日(火)～3月13日(土) (9日夕方集合、13日昼解散)
開講大学・施設名	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所		
施設の住所	〒051-0013 北海道室蘭市舟見町1丁目133番地31		
電話	0143-22-2846	F a x	0143-22-4135
e-mail	nagasato@fsc.hokudai.ac.jp	Web Site	http://www.fsc.hokudai.ac.jp/muroran/home.html
交通案内	J R 室蘭本線の室蘭駅で下車。新千歳空港からも J R を利用できるが、高速バス(道南バス)を利用した方が料金は安い(市役所北で下車・予約制なので注意が必要)。室蘭駅・バス停留所からは徒歩(約 10 分)。		
費用	約 4,500 円(宿泊費・雑費・昼食代を含む)朝食・夕食は各自準備する(徒歩圏内にスーパー・コンビニ複数有り)。		
授業科目名	特別実習(早春の北海道南部での海藻採集と培養技術の習得)		
単位数	1	定員数	8
授業料の徴収について	国公立大学の学生は所定の書式を申請することにより不徴収とする。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	原則として先着順とする。申し込み締め切りは実習開始日の 2 か月前。定員に満たない場合は追加募集を行う(実習開始日の 1 か月前まで)。		
選抜結果連絡法	E-mail で仮通知し、その後に理学部から正式通知を郵送。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	北の海，潮間帯のフィールド生物学		
実習内容	<p>海と陸の境界である潮間帯では様々な生物がひしめき合って生息している．どのような生物が共存できるかは，狭い垂直範囲内で急激に変化する環境条件や生物同士の関わりに大きく影響される．本実習では，潮間帯および潮下帯の生物を対象とし，生物の多様性とそれを規定する要因について明らかにすることを目的に行う．受講生は，生態学コースと分類学コースいずれかのアプローチを選択する．</p> <p>生態学コースでは，学生自身がグループを組み，主体的に研究目的を設定し，多様性を実測するためのフィールド調査を組み立て，実践する．調査で得られたデータは必要に応じて解析を行う．実習の最後にはグループ毎に成果を紹介し，他のグループの成果についても理解を深める．</p> <p>分類学コースでは，潮間帯岩礁・砂浜・アマモ場・潮下帯泥底等のフィールドにおいて様々な生物の採集法・観察法・同定法を習得し，浅虫周辺の底生生物の種多様性を明らかにすることを旨とする．また陸上と比較して遥かに多様な動物門を観察することができる海洋環境において，様々な底生生物の体の構造について学び，海洋生物の多様性について実践的な理解を深める．</p>		
実習内容キーワード	生態学・分類学・生物多様性・潮間帯・フィールド調査 他		
担当教員氏名・所属・役職名	岩崎 藍子・東北大学浅虫海洋生物学教育研究センター・助教 福森 啓晶・東北大学浅虫海洋生物学教育研究センター・助教		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	学部 2 年生以上 (学部学生のみ)	開講期間	8 月 6 日 (木) – 8 月 13 日 (木)
開講大学・施設名	東北大学・浅虫海洋生物学教育研究センター		
施設の住所	〒039-3501 青森市浅虫字坂本 9 番地		
電話	017-752-3388	F a x	017-752-2765
e-mail	asamushi@grp.tohoku.ac.jp	Web Site	http://www.biology.tohoku.ac.jp/lab-www/asamushi/
交通案内	東北新幹線「新青森駅」から JR 奥羽本線で「青森駅」まで移動，青い森鉄道に乗り換えて「浅虫温泉駅」下車，徒歩 20 分(約 1km)．詳しくはセンター Web Site を参照．		
費用	1 日 2000 円程度 (2 食を含む)		
授業科目名	公開臨海実習		
単位数	2 単位	定員数	10 名
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>先着順，人数が多い時には他の公開臨海実習と重複受講しない者を優先します．</p> <p>申し込み締め切り: 2026/6/30 (火)</p>		
選抜結果連絡法	履修に必要な書類とともに，メールによって本人に直接通知します．		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	棘皮動物ウニの発生機構および脊索動物ホヤ胚の発生機構		
実習内容	<p>棘皮動物ウニの発生機構コースのテーマは「間接発生」機構である。間接発生とは幼生と成体の二つの相をもつ発生様式であり、多細胞動物の初期進化を理解するうえで重要な鍵の一つであると考えられている。本コースでは顕微操作、細胞標識等の実験を通してウニの間接発生機構の概要の理解を目指す。さらに様々な動物の幼生観察から間接発生様式の多様性と共通性を学習する。また、多細胞動物の初期進化研究との関連についても解説する。脊索動物ホヤ胚の発生機構コースでは海産無脊椎動物の発生研究で特に解析の進んでいる脊索動物ホヤを用いて、胚発生過程における発生運命決定機構の理解を目指す。マボヤ発生研究の現場で駆使されている実験技術を習得し、その技術を使って発生運命決定の仕組みの巧妙さを体感する。</p>		
実習内容キーワード	発生生物学 間接発生 発生運命決定 ウニ マボヤ		
担当教員氏名・所属・役職名	熊野岳・東北大学海洋生物学教育研究センター・教授 美濃川拓哉・東北大学海洋生物学教育研究センター・准教授 森田俊平・東北大学海洋生物学教育研究センター・助教		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	学部 2~3 年	開講期間	2027 年 3 月第一週~第二週
開講大学・施設名	東北大学大学院生命科学研究科附属 浅虫海洋生物学教育研究センター		
施設の住所	青森県青森市浅虫坂本 9		
電話	017-752-3388	F a x	
e-mail	smorita@tohoku.ac.jp	Web Site	<a href="http://www.biology.tohoku.ac.jp/lab-www/asamushi/">http://www.biology.tohoku.ac.jp/lab-www/asamushi/</a>
交通案内	「東北新幹線」新青森駅から「JR 奥羽本線」で青森駅へ、「青い森鉄道」に乗り換え（所要時間 25 分）、浅虫温泉駅下車、浅虫温泉駅から徒歩 20 分		
費用	1 日 2000 円程度（昼食・夕食含む）		
授業科目名	公開臨海実習		
単位数	2 単位	定員数	20 名
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>先着順、人数が多い時には他の公開臨海実習と重複受講しない者を優先します。</p> <p>申し込み締め切り:2027 年 1 月頃</p>		
選抜結果連絡法	履修に必要な書類とともに、メールによって本人に直接通知します。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	佐渡・国際臨海実習コース「International Marine Biology Course」		
実習内容	<p>本実習では、多様な海岸環境が見られる佐渡島の美しい海を舞台に、アジア各国の大学生・大学院生とともに海洋生物の多様性とその進化について学ぶ。磯でのシュノーケリングを始めとする様々な手法で生物を採集し、観察・同定を通して海洋生物の多様性とその進化について学ぶ。また、海洋マイクロプラスチックの採集やトキの野生復帰事業に関連する施設の見学を通して、人間活動と生態系のかかわりについて学ぶ。最後に、観察結果をグループで討論・発表し、参加各国の学生間の国際交流を深める。</p> <p>【海洋生物採集・観察】 シュノーケリングによる磯生物の観察・採集          たも網を用いた岸壁での夜行性海洋生物の灯火採集          実習船によるプランクトンネットを用いたプランクトン採集と海洋データの計測          ウミホタルの採集および生物発光の観察          砂浜海岸でのマイクロプラスチックの採集と観察</p> <p>【講義】 佐渡の海の特徴と海洋生物の多様性、系統分類、外部講師による特別講義</p> <p>【発表会】 グループおよび個人による、生物の観察結果・考察の発表</p> <p>※ 本実習はアジア諸国の大学生を対象とする国際臨海実習との合同開催であり、基本的に英語で進行する。ただし、必要に応じて日本語によるサポートも行うため、学部生でも参加可能である</p>		
実習内容キーワード	シュノーケリング、磯採集、プランクトン、生物多様性、進化、形態、系統分類、海洋観測		
担当教員氏名・所属・役職名	安東宏徳（臨海実験所・教授）、大森紹仁（臨海実験所・准教授）、川坂健人（臨海実験所・特任助教）		
協力教員氏名・所属・役職名	国内外の大学から複数名の外部講師を任用予定		
対象学生・学年	国公立大学の学部 1～4 年生 (大学院生も可)	開講期間	2026 年 7 月 23 日(木)～27 日(月) 4 泊 5 日 (海外からの学生の受入れ状況により、中止または日程を変更する場合がある)
開講大学・施設名	〒952-2135 新潟県佐渡市達者 87		
施設の住所	新潟大学・佐渡自然共生科学センター臨海実験所		
電話	0259-75-2012	F a x	0259-75-2870
e-mail	hando311@cc.niigata-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/sadomarine/">https://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/sadomarine/</a>
交通案内	新潟港から佐渡汽船を利用して佐渡島に渡り、佐渡両津港にて集合。両津港－臨海実験所間の移動は、実験所がチャーターバスを用意する（無料）。直江津－小木航路の利用については、事前連絡があれば公用車で小木港までの送迎を行う。		
費用	約 11,500 円（施設使用料、実習期間中の食費、寝具クリーニング代）		
授業科目名	臨海実習Ⅱ		
単位数	2 単位	定員数	約 6 名
授業料の徴収について	授業料は徴収しない。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>申込締切：2026 年 6 月 12 日（金）</p> <p>応募書類は期日までに新潟大学理学部学務係へ必着。定員を超えた場合は、締め切り後に抽選により決定する。申し込み方法の詳細は臨海実験所ウェブサイトの「公開臨海実習」ページを確認すること。</p>		
選抜結果連絡法	書面とメールにより本人に直接連絡する		

## 令和8年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	佐渡・海洋生物学コース「海洋生物多様性実習」		
実習内容	<p>佐渡島には、多様な海岸環境とそれに伴う様々な海洋生物の生態系が豊かな自然とともによく保存されている。また、潮位差の小さな日本海に位置する佐渡では、太平洋側と異なる磯生物の生態と分布様式を見ることができる。本実習では、磯でのシュノーケリングをはじめとする様々な手法を用いて採集した生物を観察・同定し、10門15綱20種のスケッチを行うことで海洋生物の系統や形態の多様性について学ぶ。また、実習最終日はトキの野生復帰事業に関する施設を見学し、佐渡島における環境保全の取り組みと森里海の生態系のつながりについて理解を深める。</p> <p>【海洋生物採集・観察】 シュノーケリングによる磯生物の観察・採集          たも網を用いた岸壁での夜行性海洋生物の灯火採集          シャベルとふるいを用いた砂泥海岸での底生物採集          実習船によるプランクトンネットを用いたプランクトンおよび魚類仔稚魚の採集          ウミホタルの採集および生物発光観察</p> <p>【生態調査】 方形枠を用いた磯生物の帯状分布の調査・データ解析</p> <p>【発表会】 個人での磯生物についての発表、およびグループでの帯状分布調査結果発表</p>		
実習内容キーワード	シュノーケリング、磯採集、プランクトン、ベントス、種多様性、進化、形態、系統分類、環境適応		
担当教員氏名・所属・役職名	安東宏徳（臨海実験所・教授）、大森紹仁（臨海実験所・准教授）、川坂健人（臨海実験所・特任助教）		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	国公立大学の学部1～4年生 (大学院生も可)	開講期間	2026年8月17日(月)～22日(土) 5泊6日
開講大学・施設名	〒952-2135 新潟県佐渡市達者 87		
施設の住所	新潟大学・佐渡自然共生科学センター臨海実験所		
電話	0259-75-2012	F a x	0259-75-2870
e-mail	hando311@cc.niigata-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/sadomarine/">https://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/sadomarine/</a>
交通案内	新潟港から佐渡汽船を利用して佐渡島に渡り、佐渡両津港にて集合。両津港－臨海実験所間の移動は、実験所がチャーターバスを用意する（無料）。直江津－小木航路の利用については、事前連絡があれば公用車で小木港までの送迎を行う。		
費用	約 14,000 円（施設使用料、実習期間中の食費、寝具クリーニング代）		
授業科目名	臨海実習Ⅱ		
単位数	2 単位	定員数	約 10 名
授業料の徴収について	授業料は徴収しない。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>申込締切：2026年7月10日（金）</p> <p>応募書類は期日までに新潟大学理学部学務係へ必着。定員を超えた場合は、締め切り後に抽選により決定する。申し込み方法の詳細は臨海実験所ウェブサイトの「公開臨海実習」ページを確認すること。</p>		
選抜結果連絡法	書面とメールにより本人に直接連絡する		

## 令和8年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	佐渡・森里海の連携学コース「森里海をつなぐ野外生態学実習」		
実習内容	<p>豊かな自然に恵まれた佐渡島は、森林、里地・里山、海、それらをつなぐ川が“ぎゅっと”と凝縮された、森里海の生態系を短期間に学ぶことができる貴重なフィールドである。本実習では、新潟大学佐渡自然共生科学センターの演習林と朱鷺・自然再生学研究施設の教員の協力の下で、佐渡島にある森・里・海のような環境でフィールドワークを行い、生物多様性やそれぞれの環境における生物群集の特徴と生態系間のつながり、そして人間の社会活動と生物との関係について学ぶ。</p> <p>【森（新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林）】</p> <p>1) 演習林での人工林、針広混交林の観察、2) 溪畔林やスギ天然林、風衝地の植生観察</p> <p>3) 牛の林間放牧による植生変化の観察、</p> <p>【里（新潟大学佐渡自然共生科学センター朱鷺・自然再生学研究施設）】</p> <p>1) トキの野生復帰と里山に関する講義、2) 耕作放棄地を利用した自然再生現場での調査</p> <p>3) 野生復帰したトキの生息環境の見学</p> <p>【海（新潟大学佐渡自然共生科学センター臨海実験所）】</p> <p>1) シュノーケリングによる磯生物の観察・採集、2) 岸壁での夜行性海洋生物の灯火採集</p> <p>3) 採集した生物の観察・分類・同定、4) 河川での環境・水生生物の調査</p>		
実習内容キーワード	トキ、環境、里山、天然林、川、岩礁、人と自然との関わり、生態系、生物多様性、磯採集、シュノーケリング、トレッキング		
担当教員氏名・所属・役職名	安東宏徳（臨海実験所・教授）、大森紹仁（臨海実験所・准教授） 川坂健人（臨海実験所・特任助教）、阿部晴恵（演習林・准教授）、 本間航介（演習林・准教授）、蕪木史弦（演習林・特任助教）、 河口洋一（朱鷺・自然再生学研究施設・教授）、 高津邦夫（朱鷺・自然再生学研究施設・准教授）、 永田尚志（朱鷺・自然再生学研究施設・フェロー）		
協力教員氏名・所属・役職名	1名の外部講師を任用予定		
対象学生・学年	国公立大学の学部1～4年生 (大学院生も可)	開講期間	2026年9月7日(月)～12日(土) 5泊6日
開講大学・施設名	〒952-2135 新潟県佐渡市達者 87		
施設の住所	新潟大学・佐渡自然共生科学センター臨海実験所		
電話	0259-75-2012	F a x	0259-75-2870
e-mail	hando311@cc.niigata-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/sadomarine/">https://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/sadomarine/</a>
交通案内	新潟港から佐渡汽船を利用して佐渡島に渡り、佐渡両津港にて集合。両津港－臨海実験所間の移動は、実験所がチャーターバスを用意する（無料）。直江津－小木航路の利用については、事前連絡があれば公用車で小木港までの送迎を行う。		
費用	約 17,000 円（施設使用料、実習期間中の食費、寝具クリーニング代）		
授業科目名	臨海実習Ⅱ		
単位数	2単位	定員数	約 10名
授業料の徴収について	授業料は徴収しない。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	申込締切：2026年7月31日（金） 応募書類は期日までに新潟大学理学部学務係へ必着。定員を超えた場合は、締め切り後に抽選により決定する。申し込み方法の詳細は臨海実験所ウェブサイトの「公開臨海実習」ページを確認すること。		
選抜結果連絡法	書面とメールにより本人に直接連絡する		

## 令和8年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	佐渡・発生／行動学コース「動物発生／行動学臨海実習」		
実習内容	<p>豊かな自然環境と生物相が残る佐渡島では、多様な海洋生物が様々な沿岸環境に適応しながら生息している。生物の形態や行動、発生のおくみは、その生物の生息環境への適応の結果として進化、発達してきた。本実習では、ヒトと同じ新口動物で卵割様式がヒトに近い棘皮動物バフンウニを用いて、人工受精と胚発生の観察を行うことで、後生動物の発生機構について学修するとともに、各種薬剤処理実験によって、発生におけるシグナル伝達の仕組みと薬剤による環境かく乱の発生への影響について考察する。また、魚類を題材に海洋動物の行動・生態研究の基礎的手法について学ぶ。実習は少人数グループに分かれて行い、最後にグループでの成果発表会を行う。</p> <p>【発生学実験】 バフンウニの受精と初期発生の観察 ウニ初期胚の動物極化および植物極化実験</p> <p>【行動学実験】 海洋生物（魚類）の個体標識と行動観察</p> <p>【海洋生物の採集・観察】 岸壁でのたも網を用いた海洋生物の採集 海洋生物の外部・内部形態の観察と同定、スケッチ</p> <p>【講義】 外部講師による動物の発生および行動に関する特別講義</p> <p>【発表会】 グループでの研究および観察結果の発表</p>		
実習内容キーワード	生物機能の多様性、環境適応、発生、シグナル伝達、環境かく乱、行動		
担当教員氏名・所属・役職名	安東宏徳（臨海実験所・教授）、大森紹仁（臨海実験所・准教授）、川坂健人（臨海実験所・特任助教）		
協力教員氏名・所属・役職名	1名の外部講師を任用予定		
対象学生・学年	国公立大学の学部1～4年生 (大学院生も可)	開講期間	2027年3月1日(月)～5日(金) 4泊5日
開講大学・施設名	〒952-2135 新潟県佐渡市達者 87		
施設の住所	新潟大学・佐渡自然共生科学センター臨海実験所		
電話	0259-75-2012	F a x	0259-75-2870
e-mail	hando311@cc.niigata-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/sadomarine/">https://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/sadomarine/</a>
交通案内	新潟港から佐渡汽船を利用して佐渡島に渡り、佐渡両津港にて集合。両津港－臨海実験所間の移動は、実験所がチャーターバスを用意する（無料）。なお、直江津－小木航路は冬季運休につき利用できない。		
費用	約 11,500 円（施設使用料、実習期間中の食費、寝具クリーニング代）		
授業科目名	臨海実習 II		
単位数	2 単位	定員数	約 10 名
授業料の徴収について	授業料は徴収しない。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>申込開始：2026年10月10日（土） 申込締切：2027年1月22日（金）</p> <p>応募書類は期日までに新潟大学理学部学務係へ必着。定員を超えた場合は、締め切り後に抽選により決定する。申し込み方法の詳細は臨海実験所ウェブサイトの「公開臨海実習」ページを確認すること。</p>		
選抜結果連絡法	書面とメールにより本人に直接連絡する		

## 令和8年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	アカテガニに着目した海岸環境の保全に関する実習		
実習内容	<p>金沢大学 環日本海域環境研究センターが面する九十九湾にはアカテガニが生息しています。アカテガニ(<i>Chiromantes haematocheir</i>)は、十脚目ベンケイガニ科に分類されるカニの一種であり、日本では本州から南西諸島までに分布し、海岸や川辺に多く生息します。アカテガニは陸上生活に高度に適応していますが、成長過程(ゾエア期からメガロパ期を経て稚ガニまでの過程)において、一時的に海中で生活する必要があります。アカテガニは、一般的に7-8月の大潮(満月か新月)の夜、満潮の時間に合わせてメスが海岸に集合して、ゾエア幼生を放出します。九十九湾の海岸環境は、アカテガニの生息環境に適しており、ゾエア幼生の放出を観察可能です。そこで本実習では、アカテガニに着目して海岸環境の保全に関する実習を実施します。すなわち、①ゾエア幼生の放出の観察、②海岸環境の調査やビオトープの整備、さらに、③韓国の研究者を招聘して、韓国での最新の研究を聴講します。</p>		
実習内容キーワード	アカテガニ、ゾエアの観察、海岸環境の調査、ビオトープの整備		
担当教員氏名・所属・役職名	鈴木信雄(環日本海域環境研究センター・教授)・関口俊男(環日本海域環境研究センター・准教授)・木谷洋一郎(環日本海域環境研究センター・准教授)		
協力教員氏名・所属・役職名	洪天祥(高麗大学・教授)・豊田賢治(広島大学・准教授)		
対象学生・学年	学部1年, 学部2年, 学部3年, 学部4年, 修士, 博士, これまで高専の学生を受け入れたことがあります。	開講期間	2026年8月17日(月) ～8月19日(水)
開講大学・施設名	金沢大学環日本海域環境研究センター・臨海実験施設		
施設の住所	〒927-0553 石川県鳳珠郡能登町小木ム 4-1		
電話	0768-74-1151	F a x	0768-74-1644
e-mail	nobuos@staff.kanazawa-u.ac.jp	Web Site	<a href="http://rinkai.w3.kanazawa-u.ac.jp/">http://rinkai.w3.kanazawa-u.ac.jp/</a>
交通案内	<p>宿泊棟が復旧して、能登の臨海実験施設に宿泊して実施します。金沢駅より実習施設まで往復ともマイクロバスで送迎予定です。8月17日、金沢駅に10時30分に集合してください。詳細は受講決定後に本人へ連絡します。</p>		
費用	<p>宿泊費 1,400 円 (700 円×2 泊) と毎日の食費。詳細は受講決定後に本人へ連絡します。</p>		
授業科目名	第1回金沢大学公開臨海実習：臨海実習1(野外実習1)		
単位数	1(公私立大学の学生については単位数認定を行わないかわりに受講証明書を発行します)	定員数	10
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>先着順、定員を大幅に超える場合は抽選とします。 申し込み締切：2026年7月10日(金)</p>		
選抜結果連絡法	本人宛に受講許可証を郵送します。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	能登半島の海洋動物相に関する実習		
実習内容	<p>海洋には様々な生物が棲息しており、陸上には見られない多くの分類群が独特な生活を送っています。本施設が位置する能登半島周辺は、地形の複雑さによる多様な海洋生物の観察が可能であるとともに、潮間帯の構造が太平洋側と異なっていることから海洋生物の分布にも特徴が認められます。</p> <p>本実習では、夏の能登半島における海洋動物の採集・観察・同定を行う野外実習を行います。沿岸性の底生動物を対象に磯での採集を行います。潮位差が少ない日本海側の海岸で主に海産無脊椎動物を採集します。また乗船実習では、プランクトンネットによる浮遊生物の採集を行います。同時に海洋観測を行い、海洋環境と動物分布の関連についても考察します。採集した生物は施設に持ち帰り、実習中の講義に基づいた知識や図鑑を参考に、生物を肉眼および顕微鏡で観察・同定します。さらに講義では、多様な海洋動物相が存在する背景や知識を学習します。</p> <p>このような取り組みで、能登半島の海洋動物相の多様性を理解・実感することが本実習の目的です。</p>		
実習内容キーワード	乗船、磯採集、海産無脊椎動物		
担当教員氏名・所属・役職名	鈴木信雄（環日本海域環境研究センター・教授）・松原 創（生命理工学系・教授） ・関口俊男（環日本海域環境研究センター・准教授）・木谷洋一郎（環日本海域環境研究センター・准教授）		
協力教員氏名・所属・役職名	布村 昇（環日本海域環境研究センター・連携研究員）・のと海洋ふれあいセンター		
対象学生・学年	学部 1 年, 学部 2 年, 学部 3 年, 学部 4 年, 修士, 博士, これまでに高専の学生を受け入れたことがある	開講期間	2026 年 8 月 26 日 (水) ~ 8 月 28 日 (金)
開講大学・施設名	金沢大学環日本海域環境研究センター・臨海実験施設		
施設の住所	〒927-0553 石川県鳳珠郡能登町小木ム 4-1		
電話	0768-74-1151	Fax	0768-74-1644
e-mail	<a href="mailto:nobuos@staff.kanazawa-u.ac.jp">nobuos@staff.kanazawa-u.ac.jp</a>	Web Site	<a href="http://rinkai.w3.kanazawa-u.ac.jp/">http://rinkai.w3.kanazawa-u.ac.jp/</a>
交通案内	宿泊棟が復旧して、能登の臨海実験施設に宿泊して実施します。金沢駅より実習施設まで往復ともマイクロバスで送迎予定です。8 月 26 日、金沢駅に 10 時 30 分に集合してください。詳細は受講決定後に本人へ連絡します。		
費用	宿泊費 1,400 円 (700 円×2 泊), のと海洋ふれあいセンターの利用料金 510 円 (ウエットスーツ使用料含む) と毎日の食費が必要です。詳細は受講決定後に本人へ連絡します。		
授業科目名	第 2 回金沢大学公開臨海実習：臨海実習 2 (野外実習 2)		
単位数	1 (公私立大学の学生については単位認定を行わないかわりに受講証明書を発行します)	定員数	10
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	先着順、定員を大幅に超える場合は抽選とします。申し込み締切：2026 年 7 月 10 日 (金)		
選抜結果連絡法	本人宛に受講許可証を郵送します。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	臨湖実習①（湖沼生態学実習）		
実習内容	<p>湖は閉鎖的で、他の生態系と区別しやすい。また、湖沼生態系の主要な構成員であるプランクトンは、定量的に採集しやすく、群集構造を解析しやすいという利点がある。そのため、湖沼は、非生物的環境要因と生物群集との相互関係を解析するのが比較的容易で、人間活動と生態系との関わりを理解するには理想的な場所である。本実習では、湖の生物の採集と観察の方法を学び、湖沼生態系の構造と機能、及びそれと人間活動との関わりについて体験的に理解する。</p> <p>長野県内の栄養段階の異なる湖沼（諏訪湖・木崎湖）について、環境要因（光環境・水温成層・水質）および生物（動植物プランクトン・水鳥の羽毛）の観察を行う。湖沼間や調査場所（沖・沿岸）の環境の違いを考察する。</p> <p>諏訪湖および木崎湖での実習は、2泊3日で諏訪臨湖実験所に宿泊して行う。8月19日午後よりガイダンスと講義を行い、8月20日に諏訪湖（諏訪市）の調査、8月21日に木崎湖（大町市）の調査を予定している。まとめ（講評）は、8月31日午前にオンライン講義で行う。まとめでは、レポート内容の発表を行う。各自のレポートのテーマは、事前に提示した中から選択する。</p>		
実習内容キーワード	湖沼, 水環境, プランクトン, 水鳥		
担当教員氏名・所属・役職名	宮原裕一・信州大学理学部・教授 笠原里恵・信州大学理学部・助教 岩木真穂・信州大学理学部・特任助教		
協力教員氏名・所属・役職名	朴虎東・信州大学理学部・教授 平林公男・信州大学繊維学部・教授		
対象学生・学年	学部1～4年, 修士	開講 期間	8/19（水）～21（金）：対面 これに加え8/31（月）にまとめを オンラインで行う。
開講大学・施設名	信州大学 理学部附属湖沼高地教育研究センター 諏訪臨湖実験所		
施設の住所	長野県諏訪市湖岸通り 5-2-4		
電話	0266-52-1955	F a x	0266-57-1341
e-mail	miyabar@shinshu-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/kosyokochi/">https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/kosyokochi/</a>
交通 案内	JR 中央線・上諏訪駅より、諏訪湖側へ徒歩 10 から 15 分		
費用	宿泊費（1,800 円もしくは 2,500 円×2 泊） 食費・交通費は実費負担		
授業科目名	臨湖実習 I		
単位数	1	定員数	10
授業料の徴収について	なし※公私立大学の学生には、単位認定を行わないかわりに受講証明書を発行します。		
受講生選抜基準と 申し込み締め切り	湖沼研究に興味を持つ学生であれば学部は問わない。単位互換の有無に関わらず、6月30日（火）までに申し込んでください。単位互換を希望する場合は、申込時に申し出てください。集合場所や持ち物などは、選抜後、信州大学理学部事務から連絡します。		
選抜結果連絡法	信州大学理学部事務から連絡します。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	臨湖実習②【リモート形式】（茨城大学・信州大学合同臨湖実習） （比較湖沼学実習）さまざまな湖沼で環境計測・生物調査をしてみよう		
<p>&lt;実習内容&gt;</p> <p>現在の日本の湖沼では、人間活動の結果としての水質悪化、外来種の侵入、有毒化学物質、ネオニコチノイド系農薬、マイクロプラスチック等の流入とそれらの残留物質、福島第一原発事故を原因とする放射性物質の蓄積など、実に多くの水環境問題に直面している。これらの環境問題が生物群集におよぼす影響評価を行うためには、湖沼の環境要因や生物群集に関するデータの蓄積が必要不可欠である。では実際にこのようなデータはどのようにして取られているのだろうか？本実習では、特殊な分析機器を用いた環境計測や生物調査を行い、分析法や得られたデータの解析法を学ぶ。また、日本第2位の面積を誇る茨城県の霞ヶ浦（過栄養湖）、長野県の諏訪湖（富栄養湖）、木崎湖（中栄養湖）など、様々な栄養状態の湖の水試料を実際に測定し、比較湖沼学的観点から日本の湖の現状を理解する。</p> <p>&lt;実習項目（本実習は Zoom によるリモート形式で実施 ※一部対面【茨城大】での参加も可能）&gt;</p> <p>8月24日（リモート）：日本の湖沼における今日的水環境問題に関する最新のトピックス</p> <p>8月25日（リモート）：霞ヶ浦・諏訪湖・木崎湖における水質測定・生物調査の様子</p> <p>8月26日（リモート）：上記湖水の水質分析と生物観察（分光光度計によるクロロフィル a 濃度測定、パックテストによる各種窒素・リン濃度の測定【自宅に試料を郵送するので各自で分析】、ICP 発光分光分析装置を用いた湖水中の各種金属分析、プランクトン・底生動物の観察）</p> <p>8月27日（リモートと対面のハイブリット）：ゲルマニウム半導体検出器を用いた底泥・魚類等の放射性セシウム濃度測定、霞ヶ浦における物理環境と実地調査</p> <p>8月28日（リモート）：総合討論</p>			
実習内容キーワード	霞ヶ浦、諏訪湖、木崎湖、比較湖沼学、水質分析、野外調査		
担当教員氏名・所属・役職名	宮原裕一（教授）・笠原里恵（助教）・岩木真穂（特任助教） 信州大学 理学部 中里亮治（准教授）・増永英治（講師）・金子誠也（助教） 茨城大学地球・地域環境共創機構(GLEC)		
協力教員氏名・所属・役職名	荻部甚一（講師）近畿大学 工学部		
対象学生・学年	学部生 (院生も可)	開講期間	2026年8月24日（月）～ 8月28日（金）
開講大学・施設名	茨城大学 GLEC・水圏環境フィールドステーション 信州大学 理学部附属湖沼高地教育研究センター 諏訪臨湖実験所		
施設の住所	〒392-0027 長野県諏訪市湖岸通り 5-2-4		
電話	0266-52-1955	Fax	0266-57-1341
e-mail	miyabar@shinshu-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/kosyokochi/">https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/kosyokochi/</a>
交通案内	Zoom によるリモート形式で実施（8月27日のみ茨城大にて対面での参加も可能）。		
費用	オンライン実習のため一切の費用負担なし。一部対面での参加を希望する者は食費で約1,000円前後。宿泊が必要な場合は事前に別途相談		
授業科目名	臨湖実習II		
単位数	1	定員数	30
授業料の徴収について	なし※公私立大学の学生には、単位認定を行わないかわりに受講証明書を発行します。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	本実習は茨城大学との合同臨湖実習であり、茨城大学の「公開臨湖実習5「さまざまな湖沼で環境計測・生物調査をしてみよう」と同じ内容です。今年度の申し込みは茨城大学で受け付けます。締め切り：6月30日（火）		
選抜結果連絡法	茨城大学から所属大学学務へ郵送、申し込み学生へはE-mailで通知。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	臨湖実習③（湖沼環境調査実習）		
実習内容	<p>1. 諏訪湖周辺の堆積物調査（吉田担当）          諏訪湖周辺において地形と河川堆積物の観察を行う。また、採取したサンプルを諏訪臨湖実験所で顕微鏡を用いて観察する。野外での観察と顕微鏡による観察とを結びつけることによって、諏訪湖の成り立ちを理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習 講義「諏訪湖周辺の地質体と諏訪湖の湖底堆積物」</li> <li>・野外調査 河川堆積物の観察・礫砂試料の採取</li> <li>・室内観察 実体顕微鏡を用いた堆積物の観察と考察</li> </ul> <p>2. 諏訪湖の水質調査（宮原・岩木担当）          信州大学理学部附属湖沼高地教育研究センター諏訪臨湖実験所で実施している諏訪湖の定期観測に参加し、水質観測の目的や方法を身につける。また、リアルタイムで得られている水質データの変動を気象情報と関連付けて解析を行い、両者の関係を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習 講義「水質観測の意義・諏訪湖の現状と課題」・観測機器の取り扱い説明</li> <li>・湖上調査 現地観測（水温・溶存酸素・透明度）・生物試料の採取・リアルタイムモニタリング装置の見学</li> <li>・水質データの解析 現場での観測値の整理と考察・リアルタイムモニタリングデータ（水温・溶存酸素）の取得と解析</li> </ul> <p>事前学習はWEB上で行い、実習は諏訪臨湖実験所にて2泊3日で行う。堆積物の調査観察は8月5日（水）～8月6日（木）、諏訪湖の調査は8月6日（木）～8月7日（金）を予定している。天候によっては湖上調査が困難なこともあるので、期間内で日程を変更する可能性がある。事前学習用に受講生には資料・動画を送るので、対面の実習日まで学習を済ませておくこと。成績評価は、提出されたレポートにより行う。</p>		
実習内容キーワード	湖, 水質観測, 堆積物, 諏訪湖の成り立ち		
担当教員氏名・所属・役職名	吉田孝紀・信州大学理学部・教授 宮原裕一・信州大学理学部・教授 岩木真穂・信州大学理学部・特任助教		
協力教員氏名・所属・役職名	笠原里恵・信州大学理学部・助教		
対象学生・学年	学部1～4年, 修士	開講期間	8月5日（水）～8月7日（金）
開講大学・施設名	信州大学 理学部附属湖沼高地教育研究センター 諏訪臨湖実験所		
施設の住所	長野県諏訪市湖岸通り5-2-4		
電話	0266-52-1955	Fax	0266-57-1341
e-mail	miyabar@shinshu-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/kosyokochi/">https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/kosyokochi/</a>
交通案内	JR 中央線・上諏訪駅より、諏訪湖側へ徒歩 10 から 15 分		
費用	宿泊費（1,800 円もしくは 2,500 円×2 泊） 食費・交通費は実費負担		
授業科目名	臨湖実習Ⅲ		
単位数	1	定員数	6
授業料の徴収について	なし※公私立大学の学生には、単位認定を行わないかわりに受講証明書を発行します。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	湖沼研究に興味を持つ学生であれば学部は問わない。単位互換の有無に関わらず、6月30日（火）までに申し込んでください。単位互換を希望する場合は、申込時に申し出るようにしてください。集合場所や持ち物については、選抜後、信州大学理学部事務から連絡します。		
選抜結果連絡法	信州大学理学部事務から連絡します。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	臨湖実習④（分析入門実習）		
実習内容	<p>本実習には 2 つのコースがあり、同時に履修することはできない。どちらも少人数で、諏訪臨湖実験所で宿泊しながら、各専門分野の基礎的な分析方法や結果の解釈の仕方を学ぶ。</p> <p><b>環境分析化学入門コース）</b> 河川や湖の水試料を用いて、生態学的観点から水質分析を行う。講義や実習を通して、化学実験における流れと注意点を学びながら、外見からは区別困難な水試料の違いを明らかにし、その違いをもたらす背景を考察する。</p> <p>1 日目：ガイダンス、講義、水試料採取／2 日目：水試料分析／3 日目：分析結果の解析・考察</p> <p><b>遺伝子分析入門コース）</b> 鳥類試料を用いて、試料からの遺伝子抽出や PCR、電気泳動等を経験し、ミトコンドリア DNA を用いた、遺伝子実験の基礎的な流れを習得する。また、遺伝子試料を用いた生態系評価や、保全への貢献事例などを講義で学び、理解を深める。</p> <p>1 日目：ガイダンス、講義、生物試料採取／2 日目：遺伝子抽出～電気泳動／3 日目：解析方法講義</p> <p>実習は、事前学習（オンライン）と、2泊3日：2027年3月15日～3月17日の実習・レポート作成の計4日間実施する。事前学習の日程は、受講者が決定後に相談して決定する。3月15日午後からガイダンスと講義を行い、16日、17日は各コースでの具体的な分析作業を行い、実習中に提示された課題／レポートに取り組み、提出する。</p>		
実習内容キーワード	湖沼, 河川, 水環境, 鳥類, 遺伝子, ミトコンドリア DNA		
担当教員氏名・所属・役職名	宮原裕一・信州大学理学部・教授 笠原里恵・信州大学理学部・助教		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	学部2～4年, 修士	開講 期間	3/15(月)～3/17(水)：対面 加えて、事前学習（オンライン）を3月上旬に1日実施する（具体的な日程は受講者と相談して決定する）
開講大学・施設名	信州大学 理学部附属湖沼高地教育研究センター 諏訪臨湖実験所		
施設の住所	長野県諏訪市湖岸通り 5-2-4		
電話	0266-52-1955	F a x	0266-57-1341
e-mail	<a href="mailto:miyabar@shinshu-u.ac.jp">miyabar@shinshu-u.ac.jp</a>	Web Site	<a href="https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/kosyokochi/">https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/kosyokochi/</a>
交通 案内	JR 中央線・上諏訪駅より、諏訪湖側へ徒歩 10 から 15 分		
費用	宿泊費（1,800 円もしくは 2,500 円×2 泊） 食費・交通費は実費負担		
授業科目名	臨湖実習IV		
単位数	1	定員数	各コース最大 3 名
授業料の徴収について	なし※公私立大学の学生には、単位認定を行わないかわりに受講証明書を発行します。		
受講生選抜基準と 申し込み締め切り	湖沼研究に興味を持つ学生であれば学部は問いません。単位互換の有無に関わらず、6月30日（火）までに申し込んでください。単位互換を希望する場合は、申込時に申し出てください。集合場所や持ち物などは、選抜後、信州大学理学部事務から連絡します。		
選抜結果連絡法	信州大学理学部事務から連絡します。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	公開臨湖実習 1 「巨大湖の生態系と環境問題－霞ヶ浦での調査・実験から理解する」		
<p>&lt;実習内容&gt;</p> <p>日本第2位の面積を誇る巨大湖「霞ヶ浦」は、首都圏に位置しているがゆえに、河口堰設置、水質悪化、湖岸開発、水辺植生の劣化、外来種の侵入など多岐にわたる環境問題を経験してきたが、現在でも国内有数の漁獲量を維持し、高い生物多様性を有する豊かな湖である。本実習では、霞ヶ浦をフィールドに環境や水生生物の調査を行い、湖沼の環境と生物科学の研究手法を身につける。さらに、霞ヶ浦が海であった数万年前から現在までの環境変遷、人の生活によってもたらされる環境変化が生物群集や生態系に及ぼしている影響、湖沼の環境問題の現状、水質対策やその技術などについても実際にフィールドや室内実験で体感しながら学ぶ。</p> <p>&lt;実習項目&gt;</p> <p>(1) 環境調査：船上での水温、透明度、溶存酸素量等の水質調査、クロロフィル量や栄養塩分析等  (2) プランクトン・底生動物調査：湖心部や沿岸部でのプランクトンネットやエクマンバージ採泥器などを用いた採集、顕微鏡を用いた観察・標本作製・同定・計数  (3) 湖底堆積物分析：粒度分析、データ解析  (4) 魚類調査：地曳網、投網、定置網等を用いた定量採集、魚類の食性調査と食物網の解析  (5) 外来生物調査：チャネルキャットフィッシュの釣獲調査  (6) 霞ヶ浦における水質対策についての講義と水処理技術に関する活性汚泥を用いた室内実験等</p>			
実習内容キーワード	富栄養湖、船上調査、プランクトン、底生動物、魚類、湖沼生態系		
担当教員氏名・所属・役職名	中里亮治（准教授）・加納光樹（教授）・藤田昌史（教授）・山口直文（講師）・金子誠也（助教）茨城大学地球・地域環境共創機構（GLEC）		
協力教員氏名・所属・役職名	なし		
対象学生・学年	学部生 (院生も可)	開講期間	2026年8月18日（火）～ 8月22日（土）
開講大学・施設名	茨城大学 GLEC・水圏環境フィールドステーション（水圏 FS）		
施設の住所	〒311-2402 茨城県潮来市大生 1375		
電話	0299-66-6886	F a x	0299-67-5175
e-mail	suiken@ml.ibaraki.ac.jp	Web Site	http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/
交通案内	高速バス停留所「水郷潮来（東京駅から1時間20分、片道2100円）」もしくはJR延方駅からタクシーで水圏 FS まで約15分。		
費用	宿泊費と食費で約20,000円前後 宿泊先は公共研修施設レイクエコー		
授業科目名	臨湖実習		
単位数	1単位 (院生の場合、所属大学院での単位認定不可)	定員数	10名
授業料の徴収について	国立・公立・私立大学を問わず不徴収。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>先着順。申し込み締め切りは6月30日（火）。定員に満たない場合は追加募集を行う。申し込み状況の問い合わせはE-mailで。</p> <p><u>感染症等の予期せぬ事態により、オンラインでの開催や中止となる可能性があります。開催の可否、実習内容、日程、アクセス等については、当施設ホームページにて最新情報を必ず確認してください。</u></p>		
選抜結果連絡法	所属大学学務へ郵送、および申し込み学生へE-mailで通知。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	公開臨湖実習 2 「追跡！巨大ナマズ湖沼の外来生物問題の最前線」		
<p>&lt;実習内容&gt;</p> <p>日本第 2 位の湖面積を誇る霞ヶ浦は、河口堰の設置、治水・利水のための湖岸開発、水質悪化、水辺植物帯の消失、様々な外来種の侵入などの環境問題に直面してはいるが、現在でも国内有数の漁獲量を維持し、高い生物多様性を有する豊かな湖である。現在、霞ヶ浦では、特定外来生物のチャンネルキャットフィッシュ（アメリカナマズ）が大増殖し、生物群集や水産業、人の生活などに様々な影響をもたらしている。実習では霞ヶ浦のチャンネルキャットフィッシュを主な題材とし、湖沼の外来生物問題の現状と課題について、実際にフィールドで体感しながら学ぶ。</p> <p>&lt;実習項目&gt;</p> <p>(1) 環境調査：沿岸帯での水温、透明度、溶存酸素量等の測定と水質分析  (2) 在来生物の生息状況調査：地曳網、投網、定置網等を用いた魚類採集、プランクトンネットや採泥器等を用いたプランクトンと底生動物採集、顕微鏡を用いた観察・同定・計数等  (3) 外来ナマズ生息状況調査：釣りや各種漁具による捕獲調査、生物学的特徴を調べるための解剖、耳石による年齢査定、被害実態を把握するための胃内容物解析等  (4) 実習生のアイデアによる防除手法の開発・試験と防除計画書の作成</p>			
実習内容キーワード	外来生物、在来生物群集、生物多様性、漁業資源、湖沼環境		
担当教員氏名・所属・役職名	加納光樹（教授）・金子誠也（助教） 茨城大学地球・地域環境共創機構（GLEC）		
協力教員氏名・所属・役職名	なし		
対象学生・学年	学部生 (院生も可)	開講期間	2026 年 9 月 3 日（木）～ 9 月 6 日（日）
開講大学・施設名	茨城大学 GLEC・水圏環境フィールドステーション（水圏 FS）		
施設の住所	〒311-2402 茨城県潮来市大生 1375		
電話	0299-66-6886	F a x	0299-67-5175
e-mail	suiken@ml.ibaraki.ac.jp	Web Site	http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/
交通案内	高速バス停留所「水郷潮来（東京駅から 1 時間 20 分、片道 2100 円）」もしくは JR 延方駅からタクシーで水圏 FS まで約 15 分。		
費用	宿泊費と食費で約 15,000 円前後 宿泊先は公共研修施設レイクエコー		
授業科目名	陸水外来生物学実習		
単位数	1 単位 (院生の場合、所属大学院での単位認定不可)	定員数	10 名
授業料の徴収について	国立・公立・私立大学を問わず不徴収。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>先着順。申し込み締め切りは 6 月 30 日（火）。定員に満たない場合は追加募集を行う。申し込み状況の問い合わせは E-mail で。</p> <p><u>感染症等の予期せぬ事態により、オンラインでの開催や中止となる可能性があります。開催の可否、実習内容、日程、アクセス等については、当施設ホームページにて最新情報を必ず確認してください。</u></p>		
選抜結果連絡法	所属大学学務へ郵送、および申し込み学生へ E-mail で通知。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	公開臨湖実習 3 「堆積環境調査実習—地層や地形の形成プロセスから過去を知るための観察・分析法」		
<p>&lt;実習内容&gt;  潮来市にある水圏環境フィールドステーションの周辺をフィールドとして、4泊5日の実習を行う。過去の環境変化を復元する手がかりとなる地層や地形を調べるための、様々な堆積物採取手法や調査分析手法を実践的に学ぶ。</p> <p>&lt;実習項目&gt;  さまざまな未固結堆積物の観察、サンプル採取、分析などの体験を通して、地層・地形の形成過程や環境復元の方法を学ぶ。</p> <p>(1) 第四系海成堆積物（下総層群）の観察・記載・柱状図作成  (2) 霞ヶ浦北浦における湖底堆積物の採取と観察  (3) レーザー回折式粒度分析装置を用いた堆積物の粒度分析  (4) 現世海浜でのジオスライサーおよびハンドオーガーを用いた簡易掘削と堆積物の観察  (5) 霞ヶ浦周辺の地形観察</p>			
実習内容キーワード	堆積物、地層、地形、粒度分析、堆積過程、堆積構造、簡易掘削、霞ヶ浦、船上調査、生痕化石		
担当教員氏名・所属・役職名	山口直文（講師）・金子誠也（助教） 茨城大学地球・地域環境共創機構（GLEC）		
協力教員氏名・所属・役職名	なし		
対象学生・学年	学部 2～4 年生 (院生も可)	開講期間	2026 年 9 月 8 日（火）～ 9 月 12 日（土）
開講大学・施設名	茨城大学 GLEC・水圏環境フィールドステーション（水圏 FS）		
施設の住所	〒311-2402 茨城県潮来市大生 1375		
電話	0299-66-6886	F a x	0299-67-5175
e-mail	suiken@ml.ibaraki.ac.jp	Web Site	http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/
交通案内	高速バス停留所「水郷潮来（東京駅から 1 時間 20 分、片道 2100 円）」もしくは JR 延方駅からタクシーで水圏 FS まで約 15 分。		
費用	宿泊費と食費で約 20,000 円前後 宿泊先は公共研修施設レイクエコー		
授業科目名	地質環境科学実習		
単位数	1 単位 (院生の場合、所属大学院での単位認定不可)	定員数	5 名程度
授業料の徴収について	国立・公立・私立大学を問わず不徴収。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>先着順。申し込み締め切りは 6 月 30 日（火）。定員に満たない場合は追加募集を行う。申し込み状況の問い合わせは E-mail で。</p> <p><u>感染症等の予期せぬ事態により、オンラインでの開催や中止となる可能性があります。開催の可否、実習内容、日程、アクセス等については、当施設ホームページにて最新情報を必ず確認してください。</u></p>		
選抜結果連絡法	所属大学学務へ郵送、および申し込み学生へ E-mail で通知。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	公開臨湖実習 4 「巨大湖の生物多様性に迫る－実践的なフィールドワークと分子生物学的手法から」【リモート形式】		
<p>&lt;実習内容&gt;</p> <p>日本第 2 位の面積を誇る巨大湖「霞ヶ浦」は、首都圏に位置し幾多の大規模開発を経験しながらも、現在でも高い生物多様性を維持している。本実習では、オンラインシステムを駆使して環境や生物の調査について学び、霞ヶ浦に生息する生物種やその生態についての理解を深める。また、分子生物学的な調査手法の紹介を行うとともに、各自が身近な環境でのフィールド調査を実施することで、生物の調査を行う際に必要となる実践的な調査手法の理解・習得を行う。</p> <p>&lt;実習項目（本実習は Zoom によるリモート形式で実施）&gt;</p> <p>(1) 微生物の多様性に関する調査：顕微鏡観察や DNA 解析（フラグメント解析）を用いたシアノバクテリアの群集調査から、両手法によって得られた藻類の多様性を比較し、それぞれの手法のメリット・デメリットを考察する。また、有毒シアノバクテリア種の毒生産遺伝子に特異的なマーカーを使い、霞ヶ浦に出現する有毒シアノバクテリアを調べる。</p> <p>(2) 大型無脊椎動物フィールド調査：船上における環境調査や底生動物調査、標本作製、同定作業の実施方法を動画やスライド、リアルタイム中継などにより理解する。</p> <p>(3) 魚類フィールド調査：投網や定置網等を用いた採集調査のリアルタイム中継を行い、霞ヶ浦に生息する魚類の多様性について理解する。また、身近な環境でのフィールド調査等を各自で実施し、調査手法の習得や生息する生物についての理解を深める。</p>			
実習内容キーワード	シアノバクテリア、DNA 解析、ユスリカ幼虫、魚類		
担当教員氏名・所属・役職名	中里亮治（准教授）・加納光樹（教授）・金子誠也（助教） 茨城大学地球・地域環境共創機構（GLEC）		
協力教員氏名・所属・役職名	程木義邦（准教授）中部大学 応用生物学部		
対象学生・学年	学部生 (院生も可)	開講期間	2026 年 9 月 23 日（水）～ 9 月 26 日（土）
開講大学・施設名	茨城大学 GLEC・水圏環境フィールドステーション（水圏 FS）		
施設の住所	〒311-2402 茨城県潮来市大生 1375		
電話	0299-66-6886	F a x	0299-67-5175
e-mail	suiken@ml.ibaraki.ac.jp	Web Site	http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/
交通案内	Zoom によるリモート形式で実施。		
費用	オンライン実習のため一切の費用負担なし。		
授業科目名	陸水生物多様性生態学実習		
単位数	1 単位 (院生の場合、所属大学院での単位認定不可)	定員数	15 名
授業料の徴収について	国立・公立・私立大学を問わず不徴収。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	先着順。申し込み締め切りは 6 月 30 日（火）。定員に満たない場合は追加募集を行う。申し込み状況の問い合わせは E-mail で。		
選抜結果連絡法	所属大学学務へ郵送、および申し込み学生へ E-mail で通知。		

## 令和8年度公開臨湖・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	公開臨湖実習5（茨城大学・信州大学合同臨湖実習）「さまざまな湖沼で環境計測・生物調査をしてみよう」【リモート形式】		
＜実習内容＞	<p>現在の日本の湖沼では、人間活動の結果としての水質悪化、外来種の侵入、有毒化学物質、ネオニコチノイド系農薬、マイクロプラスチック等の流入とそれらの残留物質、福島第一原発事故を原因とする放射性物質の蓄積など、実に多くの水環境問題に直面している。これらの環境問題が生物群集におよぼす影響評価を行うためには、湖沼の環境要因や生物群集に関するデータの蓄積が必要不可欠である。では実際にこのようなデータはどのようにして取られているのだろうか？本実習では、特殊な分析機器を用いた環境計測や生物調査を行い、分析法や得られたデータの解析法を学ぶ。また、日本第2位の面積を誇る茨城県の霞ヶ浦（過栄養湖）、長野県の諏訪湖（富栄養湖）、木崎湖（中栄養湖）など、様々な栄養状態の湖の水試料を実際に測定し、比較湖沼学的観点から日本の湖の現状を理解する。</p> <p>＜実習項目（本実習はZoomによるリモート形式で実施 ※一部対面【茨城大】での参加も可能）＞</p> <p>8月24日（リモート）：日本の湖沼における今日的水環境問題に関する最新のトピックス</p> <p>8月25日（リモート）：霞ヶ浦・諏訪湖・木崎湖における水質測定・生物調査の様子</p> <p>8月26日（リモート）：上記湖水の水質分析と生物観察（分光光度計によるクロロフィルa濃度測定、パックテストによる各種窒素・リン濃度の測定【自宅に試料を郵送するので各自で分析】、ICP発光分光分析装置を用いた湖水中の各種金属分析、プランクトン・底生動物の観察）</p> <p>8月27日（リモートと対面のハイブリット）：ゲルマニウム半導体検出器を用いた底泥・魚類等の放射性セシウム濃度測定、霞ヶ浦における物理環境と実地調査</p> <p>8月28日（リモート）：総合討論</p>		
実習内容キーワード	霞ヶ浦、諏訪湖、木崎湖、比較湖沼学、水質分析、野外調査		
担当教員氏名・所属・役職名	宮原裕一（教授）・笠原里恵（助教）・岩木真穂（特任助教） 信州大学 理学部 中里亮治（准教授）・増永英治（講師）・金子誠也（助教） 茨城大学地球・地域環境共創機構（GLEC）		
協力教員氏名・所属・役職名	荻部甚一（講師）近畿大学 工学部		
対象学生・学年	学部生 (院生も可)	開講期間	2026年8月24日（月）～ 8月28日（金）
開講大学・施設名	茨城大学 GLEC・水圏環境フィールドステーション 信州大学 理学部附属湖沼高地教育研究センター 諏訪臨湖実験所		
施設の住所	〒311-2402 茨城県潮来市大生 1375		
電話	0299-66-6886	F a x	0299-67-5175
e-mail	suiken@ml.ibaraki.ac.jp	Web Site	http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/
交通案内	Zoomによるリモート形式で実施（8月27日のみ茨城大にて対面での参加も可能）。		
費用	オンライン実習のため一切の費用負担なし。一部対面での参加を希望する者は食費で約1,000円前後。宿泊が必要な場合は事前に別途相談		
授業科目名	湖沼環境計測実習		
単位数	1単位 (院生の場合、所属大学院での単位認定不可)	定員数	30名
授業料の徴収について	国立・公立・私立大学を問わず不徴収。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	本実習は信州大学との合同臨湖実習であり、信州大学の臨湖実習②「比較湖沼学実習」と同じ内容です。今年度の申し込みは茨城大学で受け付けます。締め切り：6月30日（火）		
選抜結果連絡法	所属大学学務へ郵送、および申し込み学生へE-mailで通知。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	海産動物の生活史・生態と生殖発生研究の展開		
実習内容	<p>棘皮動物や魚類などの多様な海産動物の生殖、発生、生態について実習します。さらに、ゲノム編集などの新しい研究手法を使った研究を紹介します。一部の講義実習は英語で行われます。最終日には実習で学んだ内容について発表を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 棘皮動物（ウニ、ヒトデ、ナマコ）の幼生と五放射の成体への形態形成</li> <li>● ゲノム編集の仕組みと海産生物研究への適用（英語の講義と実習）</li> <li>● ノックアウトウニの作成とそれを使った受精発生実験</li> <li>● 海産生物精子の運動調節に関する講義と実習</li> <li>● 海洋酸性化の動物発生への影響</li> <li>● 水中ドローンによる北限域の造礁サンゴ群集の観察</li> <li>● 魚類の繁殖に関わる行動と形態の観察</li> </ul>		
実習内容キーワード	棘皮動物、ウニ、発生、幼生、精子運動、ゲノム編集、海洋酸性化、魚類		
担当教員氏名・所属・役職名	清本正人・お茶の水女子大学・教授 柴小菊・お茶の水女子大学・准教授 宇田川澄生・お茶の水女子大学・特任助教		
協力教員氏名・所属・役職名	松本有記雄・東京海洋大学・教授 Gary Wessel・ブラウン大学（アメリカ）・Professor Nathalie Oulhen・ブラウン大学（アメリカ）・Assistant Professor		
対象学生・学年	学部学生・院生	開講期間	2025年9月14日から18日
開講大学・施設名	お茶の水女子大学 湾岸生物教育研究所		
施設の住所	〒294-0301 千葉県館山市香 11		
電話	0470-29-0838	F a x	0470-20-9011
e-mail	kiyomoto.masato*ocha.ac.jp （*に@を入れてください）	Web Site	<a href="http://www.cf.ocha.ac.jp/marine/index.html">http://www.cf.ocha.ac.jp/marine/index.html</a>
交通案内	東京駅八重洲南口やバスタ新宿から高速バス館山駅下車、または JR 内房線で館山駅。JR バス（西岬方面）で約 15 分、「長通り」下車、徒歩 1 分。		
費用	施設利用（宿泊込）と食費 1 日約 2,000 円		
授業科目名	公開臨海実習		
単位数	2	定員数	10 名
授業料の徴収について	国・公・私立大学を問わず不徴収		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	書類選考。 締め切りは募集要項やホームページで確認のこと。		
選抜結果連絡法	e-mail によって、履修に必要な情報とともに本人に連絡する。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	海の自然史学的研究		
実習内容	<p>沿岸に生息する海産動物に焦点を当て、形態や発生の観察等を通して、生物多様性の実体を解明する手法を学びます。国立科学博物館との共催です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、多様な環境（岩礁、砂泥底、海中など）に生息する海産動物の採集法</li> <li>2、自然史博物館の活動、研究用標本の作製や保存法</li> <li>3、新口動物の比較形態学 --- 棘皮動物、頭索動物（ナメクジウオ）</li> <li>4、海産動物の生活史 --- ウニをモデルに幼生から五放射体制の成体へ</li> <li>5、海産動物における個体の単位 --- ホヤ類の単体性・群体性とその分類</li> <li>6、サンゴの生物学 --- 形態形質から考える生物分類—同定と分類学的課題</li> <li>7、魚類の系統分類学と形態学</li> <li>8、相模湾の深海性生物— 特にフクロウニ、ガラス海綿、および、ウミユリ類について（講義）</li> </ol>		
実習内容キーワード	自然史学、標本作製、新口動物、ウニ、ナメクジウオ、ホヤ、ウミユリ、トリノアシ、サンゴ、群体		
担当教員氏名・所属・役職名	清本正人・お茶の水女子大学・教授 柴小菊・お茶の水女子大学・准教授 宇田川澄生・お茶の水女子大学・特任助教		
協力教員氏名・所属・役職名	廣瀬慎美子・国立科学博物館動物研究部・研究主幹 中江雅典・国立科学博物館動物研究部・研究主幹 長谷川尚弘・広島修道大学・助教 雨宮昭南・東京大学・名誉教授		
対象学生・学年	学部学生・院生	開講期間	2027年3月22日から26日
開講大学・施設名	お茶の水女子大学 湾岸生物教育研究所		
施設の住所	〒294-0301 千葉県館山市香 11		
電話	0470-29-0838	F a x	0470-20-9011
e-mail	kiyomoto.masato*ocha.ac.jp （*に@を入れてください）	Web Site	http://www.cf.ocha.ac.jp/marine/index.html
交通案内	東京駅八重洲南口やバスタ新宿から高速バス館山駅下車、または JR 内房線で館山駅。JR バス（西岬方面）で約 15 分、「長通り」下車、徒歩 1 分。		
費用	施設利用（宿泊込）と食費 1 日約 2,000 円		
授業科目名	公開臨海実習		
単位数	2	定員数	20
授業料の徴収について	国・公・私立大学を問わず不徴収		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	書類選考。 締め切りは募集要項やホームページで確認のこと。		
選抜結果連絡法	e-mail によって、履修に必要な情報とともに本人に連絡する。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	A コース：海洋動物の多様性・個体発生と系統発生		
実習内容	<p>世界的に見ても豊富な生物相を有する，三崎臨海実験所の周辺海域において実習を行う．内容としてはまず，実験所周辺の磯で可能な限り多くの動物門を採集する．採集方法は磯や干潟での徒手採集，プランクトンネット，練習船を用いたドレッジ採集などを想定している．採集した動物種を実験室に持ち帰り，詳細に外部形態を観察・スケッチした後に，文献などを参考にして種を同定する．さらに観察した動物種について，徹底的な解剖を行って内部形態を観察し，動物の多様なボディプランがいかにして作られるのかを考察する．最終日には，実習参加者による発表会を予定している．これらの実習を通して，多様な生物，特に後生動物に見られるボディプランのほぼすべてを網羅する海産動物に親しみを持つと同時に，それらの系統分類学・形態学・発生学・生態学の導入部分を学ぶ．</p>		
実習内容キーワード	生物多様性，形態学，系統分類学，発生学，進化発生学		
担当教員氏名・所属・役職名	三浦 徹 東京大学・大学院理学系研究科・教授 小口 晃平 東京大学・大学院理学系研究科・准教授 黒川 大輔 東京大学・大学院理学系研究科・助教 大友 洋平 東京大学・大学院理学系研究科・特任助教		
協力教員氏名・所属・役職名	なし		
対象学生・学年	学部 1～3 年生主体 (大学院生も可)	開講期間	2026/8/24 (月) ～ 8/28 (金)
開講大学・施設名	東京大学・大学院理学系研究科・附属臨海実験所		
施設の住所	神奈川県三浦市三崎町小網代 1024		
電話	046-881-4105 (代表)	F a x	
e-mail	office@mmbs.s.u-tokyo.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.mmbs.s.u-tokyo.ac.jp/wp/">https://www.mmbs.s.u-tokyo.ac.jp/wp/</a>
交通案内	新幹線/JR 線・品川駅から約 80 分 (京急線快特) → 三崎口から約 15 分 (京急バス・屋志倉行) → シーボニア入口バス停 → 徒歩 15 分で実験所正門 羽田空港から約 10 分 (京急空港線) → 京急蒲田 [乗り換え] (京急線快特) 約 70 分 → 三崎口 (以下同上) (Web Site 参照)		
費用	20,000～30,000 円程度 (食費・宿泊費・交通費等)		
授業科目名	特別臨海実習		
単位数	1 (東京大学理学部以外の単位数認定はできないが受講証を発行)	定員数	10 名
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	原則として先着順だが，定員を大幅に超える場合は抽選．同一大学在學生に偏る場合は調整する．申し込み状況の問い合わせはメールにて対応する．		
選抜結果連絡法	原則としてメールで行い，不可能な場合は郵便等を用いる．連絡は個人に対して直接行うため，連絡先を明記すること．		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	B コース：ラボとフィールドで学ぶ海産動物の発生と共生		
実習内容	<p>本実習では、三崎近海で採集可能な海産動物を材料として、その外部形態・内部形態および生態について学習するとともに発生過程の観察を行う。具体的には、バフンウニおよびカタユウレイボヤの正常発生の観察と発生実験を実施し、さらに発光共生を対象とした細胞生物学的解析として発光魚ヒイラギにおける発光細菌の単離培養および FISH 法による局在観察を行う。また、和船の操船実習を通じてプランクトンを採集し、その観察を行うことで、海産動物の多様性と発生・共生の理解を深める。</p>		
実習内容キーワード	海産無脊椎動物, 進化発生学, 比較発生, 共生細菌		
担当教員氏名・ 所属・役職名	三浦 徹 東京大学・大学院理学系研究科・教授 小口 晃平 東京大学・大学院理学系研究科・准教授 黒川 大輔 東京大学・大学院理学系研究科・助教 大友 洋平 東京大学・大学院理学系研究科・特任助教		
協力教員氏名・ 所属・役職名	なし		
対象学生・学年	学部 1～3 年生主体 (大学院生も可)	開講期間	2027/2/15 (月) ～ 19 (金)
開講大学・施設名	東京大学・大学院理学系研究科・附属臨海実験所		
施設の住所	神奈川県三浦市三崎町小網代 1024		
電話	046-881-4105 (代表)	F a x	
e-mail	office@mmbs.s.u-tokyo.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.mmbs.s.u-tokyo.ac.jp/wp/">https://www.mmbs.s.u-tokyo.ac.jp/wp/</a>
交通 案内	新幹線/JR 線・品川駅から約 80 分 (京急線快特) → 三崎口から約 15 分 (京急バス・屋志倉行) → シーボニア入口バス停 → 徒歩 15 分で実験所正門 羽田空港から約 10 分 (京急空港線) → 京急蒲田 [乗り換え] (京急線快特) 約 70 分 → 三崎口 (以下同上) (Web Site 参照)		
費用	20,000～30,000 円程度 (食費・宿泊費・交通費等)		
授業科目名	特別臨海実習		
単位数	1  (東京大学理学部以外の単位数認定はできないが受講証を発行)	定員数	10
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と 申し込み締め切り	原則として先着順だが、定員を大幅に超える場合は抽選。同一大学在学生在に偏る場合は調整する。申し込み状況の問い合わせはメールにて対応する。		
選抜結果連絡法	原則としてメールで行い、不可能な場合は郵便等を用いる。連絡は個人に対して直接行うため、連絡先を明記すること。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	伊豆半島沿岸の生態と多様性		
実習内容	<p>伊豆半島は東岸に相模灘、西岸には駿河湾があり、そのいずれも海岸付近の浅海から急激に水深が深くなり、沿岸域で 200 メートルを超える深海に達する。このように近い距離にある 2 つの海域であるが、伊豆半島を挟んでいること、黒潮から受ける影響に差があることなどから、同じ水深域でも異なる生物が生息していることが明らかになっている。</p> <p>下田臨海実験センターは伊豆半島の先端近くにあり、センターの研究調査船「つくば II」により、伊豆半島の東岸と西岸、いずれも調査することが可能である。この実習では、下田臨海実験センターとつくば II を利用し、相模灘と駿河湾、および浅海と深海という異なった海域の生態系・生物多様性の共通点・相違点を理解すること、そして海産動物の採集法と観察法を習得することを目指す。</p>		
実習内容キーワード	生物多様性、系統進化、生態系、ドレッジ、磯採集		
担当教員氏名・所属・役職名	中野裕昭・筑波大学 生命環境系 下田臨海実験センター・准教授		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	学部 2～4 年	開講期間	2026/8/3 (月) ～ 8/7 (金)
開講大学・施設名	筑波大学 下田臨海実験センター		
施設の住所	〒415-0025 静岡県下田市 5-10-1 筑波大学下田臨海実験センター		
電話	0558-22-1317	F a x	
e-mail	<a href="mailto:h.nakano@shimoda.tsukuba.ac.jp">h.nakano@shimoda.tsukuba.ac.jp</a>	Web Site	<a href="https://www.shimoda.tsukuba.ac.jp/">https://www.shimoda.tsukuba.ac.jp/</a>
交通案内	伊豆急行線『伊豆急下田』駅下車、徒歩約 30 分、タクシーでは約 5 分。バスでは、駅前のバスターミナルより石廊崎、下賀茂、仲木方面行きに乗り約 5 分、『鍋田口』で下車して徒歩約 5 分。		
費用	8,400 円(宿泊費と食費、若干の変動の可能性有、交通費は各自負担)		
授業科目名	生物学公開臨海実習		
単位数	1	定員数	14
授業料の徴収について	なし。ただし、各大学から筑波大学生命環境学群長宛てに指定の特別聴講学生願書を提出すること。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	定員を超える場合には、受講生選抜基準は先着順。ただし、なるべく多くの大学から受け入れるよう抽選などにて調整する可能性がある。 申し込み締め切り：2026/6/15 (月)		
選抜結果連絡法	e-mail と郵送によって履修に必要な書類とともに本人に連絡する。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	海の生物と環境の相互作用		
実習内容	<p>海洋生態系は、生物と環境との相互作用によって形成される。本実習では、野外観測と調査を通じて、生態系構造を規定する環境要因と生物群集の関係を総合的に理解する。下田湾内外における CTD 観測および採泥調査により、水環境と亜潮帯底生生物群集の関係を解析する。また、岩礁潮間帯の微環境（マイクロクライメイト）に着目し、物理的ストレスと生物間相互作用が群集構造に与える影響を検討する。さらに、野外データに基づく仮説検証型の実験デザインを学び、調査設計と解析の基礎を習得する。</p> <p>Marine ecosystems are structured by interactions between organisms and their environment. This course provides an integrated framework for understanding how environmental drivers structure marine communities through field observation and quantitative analysis. CTD observations and benthic sampling inside and outside Shimoda Bay will be used to examine relationships between water properties and subtidal benthic communities. In addition, microclimatic variation in rocky intertidal habitats will be investigated to evaluate the relative importance of physical stress and biological interactions in structuring communities. Students will also learn hypothesis-driven experimental design based on field data, developing foundational skills in ecological study design and analysis.</p>		
実習内容キーワード	海洋生態学、環境勾配、底生生物群集、マイクロクライメイト、実験デザイン		
担当教員氏名・所属・役職名	Harvey Benjamin・筑波大学生命環境系・助教		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	修士	開講期間	2026/10/5（月）～ 2026/10/8（木）
開講大学・施設名	筑波大学 下田臨海実験センター		
施設の住所	〒415-0025 静岡県下田市 5-10-1 筑波大学下田臨海実験センター		
電話	0558-22-1317	F a x	0558-22-0346
e-mail	ben.harvey@shimoda.tsukuba.ac.jp	Web Site	https://www.shimoda.tsukuba.ac.jp/
交通案内	伊豆急行線『伊豆急下田』駅下車、徒歩約 30 分、タクシーでは約 5 分。バスでは、駅前のバスターミナルより石廊崎、下賀茂、仲木方面行きに乗り約 5 分、『鍋田口』で下車して徒歩約 5 分。		
費用	6,200 円(宿泊費と食費、若干の変動の可能性有、交通費は各自負担)		
授業科目名	マリン生態環境科学		
単位数	1	定員数	5
授業料の徴収について	なし。ただし、各大学から筑波大学生命環境学群長宛てに指定の特別聴講学生願書を提出すること。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	定員を超える場合には、受講生選抜基準は先着順。ただし、なるべく多くの大学から受け入れるよう抽選などにて調整する可能性がある。 申し込み締め切り：2026/7/24（金）		
選抜結果連絡法	e-mail と郵送によって、履修に必要な書類とともに本人に連絡する。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	海産無脊椎動物の多様性		
実習内容	<p>名古屋大学・菅島臨海実験所（NU-MBL）は三重県鳥羽市沖の菅島に位置しています。穏やかな伊勢湾と潮通しの良い熊野灘の中間的な位置にあるため、多様な生物を観察することができ生物多様性の研究に適した環境です。近年多数の新種が発見されている他、ナメクジウオ等普段目にするのできない生物も採集することができます。</p> <p>研究に用いる生物が、どのような形や生態をしていて・どのような場所にいるか・何という名前であるか、という状況の把握は、生物学を進める上で最も基本的な部分であり、同時にそこを怠ると研究結果の正確性・再現性に大きく影響する重要な部分になります。</p> <p>本実習では、多様な海洋環境がある菅島周辺海域において、海産無脊椎動物の調査を通し生物多様性とその調査手法について基礎を学びます。実際に研究者が海洋生物の研究に用いる手法で生物採集を行い、見たことのない生物を探してみましょう。</p> <p>調査手法は菅島臨海実験所におけるベントス採集、プランクトン採集、メイオベントス採集、底引き網による深場の生物採集を計画しています（天候によって変更の可能性あり）。採集後形態観察・スケッチ・種同定の方法を学び、最後に自身で課題に取り組んでいただきます。</p> <p>希望する場合、本実習の後に実習中で得た結果の探究を進める「ポストコースリサーチ」制度を利用可能です。延長滞在または再来して研究することが可能で、滞在費を支援します。</p>		
実習内容キーワード	生物多様性、分類、ドレッジ、磯採集、プランクトン、メイオベントス		
担当教員氏名・所属・役職名	<u>自見直人</u> 名古屋大学大学院理学研究科附属臨海実験所・講師 <u>五島剛太</u> 名古屋大学大学院理学研究科附属臨海実験所・所長		
協力教員氏名・所属・役職名	中島広喜 横須賀市自然・人文博物館・学芸員		
対象学生・学年	国公立大学学部 1年生以上	開講期間	8月17日（月）～21日（金）
開講大学・施設名	名古屋大学・菅島臨海実験所（NU-MBL）		
施設の住所	〒517-0004 三重県鳥羽市菅島町 429-63		
電話	0599-34-2216	F a x	なし
e-mail	beniimo7010@gmail.com	Web Site	<a href="http://www.bio.nagoyau.ac.jp/~SugashimaMBL/index.html">http://www.bio.nagoyau.ac.jp/~SugashimaMBL/index.html</a>
交通案内	近鉄中之郷駅（無人駅）下車、中之郷棧橋に集合し、そこから実験所の船で菅島に渡る。集合場所等については、上記のホームページを参照すること。 集合は16時、解散は14時とする。		
費用	9,400円または10,600円（食事増量の場合）		
授業科目名	海洋生物学実習および講義 1		
単位数	2	定員数	5
授業料の徴収について	国立大学法人の大学院生に関しては授業料不徴収。公立私立大学の場合には、大学院特別聴講学生の授業料が必要となる。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	申し込み締め切りは7月1日。		
選抜結果連絡法	本学より電子メールで通知する。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	国際臨海実習「Functional Morphology and Evolutionary Biology of Marine Invertebrates」		
実習内容	<p>海産無脊椎動物で特に多様に進化した分類群について解剖およびスケッチを行い、各分類群の形態的特徴を理解し、その特徴と生態・系統との関連を考えることを目的とする（和英併用）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>軟体動物腹足類の比較解剖：岩礁潮間帯にて様々な形態・食性をもつ腹足類を採集し、殻と内臓を観察する。特に歯舌の形態は生物顕微鏡を使って詳細に観察し、食性ごとの特徴を理解する。</li> <li>節足動物甲殻類の比較解剖：岩礁潮間帯に生息する蔓脚類(フジツボ)・等脚類(フナムシ)等の体節や付属肢(脚)の形態に着目し、分類群ごとで脚がどのように利用され進化してきたかを考える。</li> <li>環形動物の比較解剖：岩礁潮間帯で付着生活を行う多毛類を採集する。環形動物特有の体節の繰り返し構造、付属肢(疣足)、内部構造を観察するとともに、形態と生活様式の関連を考える。</li> <li>棘皮動物の比較解剖：番所崎の潮間帯に生息するウニ・ナマコ類の生態および殻形態や内臓を観察し、棘皮動物の基本体制である五放射相性の特徴を理解し進化の道筋を考える。</li> <li>刺胞動物の比較解剖：自由生活性の刺胞動物において、底生性のイソギンチャクと浮遊性のクラゲの体制(刺胞含む)を比較し、形態と生活様式の関連を考える。</li> </ol>		
実習内容キーワード	分類、生態、形態、解剖、軟体動物、節足動物、環形動物、棘皮動物、刺胞動物		
担当教員氏名・所属・役職名	下村通誉(教授)・中野智之(准教授)・河村真理子(講師)・後藤龍太郎(助教)・山守瑠奈(助教)		
協力教員氏名・所属・役職名	なし		
対象学生・学年	1 回生以上の学部生(院生も可)	開講期間	2026 年 8 月 6 日～11 日
開講大学・施設名	京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所		
施設の住所	〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459		
電話	0739-42-3515	F a x	0739-42-4518
e-mail	goto.ryutaro.8n@kyoto-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.seto.kyoto-u.ac.jp">https://www.seto.kyoto-u.ac.jp</a>
交通案内	<p>①鉄道：新大阪・大阪・天王寺方面から JR 紀勢本線「白浜駅」下車。明光バスに乗り換え「臨海」下車すぐ、あるいは明光バス「白浜バスセンター」下車。</p> <p>②東京・大阪から、白浜までの高速バスあり。(「明光バス」ホームページ参照)</p>		
費用	滞在費(宿泊費・昼夕食費)：約 13,500 円(交通費は別途、朝食は各自用意)		
授業科目名	国際臨海実習「Functional Morphology and Evolutionary Biology of Marine Invertebrates」		
単位数	2 単位相当 (受講証明発行)	定員数	10 名
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	なるべく所属が重ならないよう配慮します。学部生を優先します。 申込締切：2026 年 6 月 26 日(金)		
選抜結果連絡法	本人・指導教員には e-mail で連絡、教務掛に許可証を郵送します。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	自由課題研究		
実習内容	<p>研究テーマを決めるところから、研究手法の設定、得られた結果をまとめ研究発表するところまで、一通りの研究の流れを学習することを目的とする。海産無脊椎動物を材料にして、系統分類・形態・発生・生態・行動・進化学などについて個人またはグループで研究テーマ、方法や材料を定め、実際に研究を行う。</p> <p>研究テーマについては基本的に、受講許可後に e-mail で実験所教員と相談し決定しておく。分類群については、節足動物、軟体動物、環形動物、棘皮動物、刺胞動物などが望ましいが、それ以外の分類群については相談の上、決定する。また、複数の分類群にまたがる共生生態学的研究や群集生態学的研究も可能である。</p> <p>毎夕方には進捗状況の報告会をし、実験結果や教員との議論を踏まえ、研究を進める。最終日には、研究発表会として 15 分程度の研究発表を行う。</p>		
実習内容キーワード	生態、分類、形態、行動、進化、テーマ研究		
担当教員氏名・所属・役職名	下村通誉（教授）・中野智之（准教授）・河村真理子（講師）・後藤龍太郎（助教）・山守瑠奈（助教）		
協力教員氏名・所属・役職名	なし		
対象学生・学年	1 回生以上の学部生（院生も可）	開講期間	2026 年 9 月 8 日～13 日
開講大学・施設名	京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所		
施設の住所	〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459		
電話	0739-42-3515	F a x	0739-42-4518
e-mail	goto.ryutaro.&n@kyoto-u.ac.jp	Web Site	https://www.seto.kyoto-u.ac.jp
交通案内	<p>①鉄道：新大阪・大阪・天王寺方面から JR 紀勢本線「白浜駅」下車。明光バスに乗り換え「臨海」下車すぐ、あるいは明光バス「白浜バスセンター」下車。</p> <p>②東京・大阪から、白浜までの高速バスあり。</p> <p>（「明光バス」ホームページ参照）</p>		
費用	滞在費（宿泊費・昼夕食費）：約 13,500 円（交通費は別途、朝食は各自用意）		
授業科目名	自由課題研究		
単位数	2 単位相当 (受講証明発行)	定員数	3 名
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	なるべく所属が重ならないよう配慮します。学部生を優先します。 申込締切：2026 年 6 月 26 日（金）		
選抜結果連絡法	本人・指導教員には e-mail で連絡、教務掛に許可証を郵送します。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	海産無脊椎動物分子系統学実習		
実習内容	<p>海産無脊椎動物に焦点をおき、海岸での標本採集から分子系統樹の作成、それらの結果に基づく研究発表まで、分子系統学的手法を一通り学ぶことを目的とする。</p> <p>1. 潮間帯での標本採集と液浸標本の作製</p> <p>2. DNA の抽出、PCR、PCR 産物の精製、塩基配列の決定</p> <p>3. DNA データの解析、系統樹の作成</p> <p>4. 研究発表</p> <p>なお、研究のテーマについては、事前に用意されたテーマから個人または 3-4 人程度のグループで 1 つのテーマを選択する。これまでに行なったテーマとしては、ベッコウガサ、イボニシ、クロヘリアメフラシ、ナガウニ類、カニ類、幼生プランクトンなどがある。</p>		
実習内容キーワード	進化、分子系統、軟体動物、海産動物、系統樹		
担当教員氏名・所属・役職名	下村通誉（教授）・中野智之（准教授）・河村真理子（講師）・後藤龍太郎（助教）・山守瑠奈（助教）		
協力教員氏名・所属・役職名	なし		
対象学生・学年	1 回生以上の学部生（院生も可）	開講期間	2027 年 2 月 21 日～28 日
開講大学・施設名	京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所		
施設の住所	〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459		
電話	0739-42-3515	F a x	0739-42-4518
e-mail	goto.ryutaro.8n@kyoto-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.seto.kyoto-u.ac.jp">https://www.seto.kyoto-u.ac.jp</a>
交通案内	<p>①鉄道：新大阪・大阪・天王寺方面から JR 紀勢本線「白浜駅」下車。明光バスに乗り換え「臨海」下車すぐ、あるいは明光バス「白浜バスセンター」下車。</p> <p>②東京・大阪から、白浜までの高速バスあり。</p> <p>（「明光バス」ホームページ参照）</p>		
費用	滞在費（宿泊費・昼夕食費）：約 18,500 円（交通費は別途、朝食は各自用意）		
授業科目名	海産無脊椎動物分子系統学実習		
単位数	2 単位相当 (受講証明発行)	定員数	12 名
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	なるべく所属が重ならないよう配慮します。学部生を優先します。 申込締切：2027 年 1 月 15 日（金）		
選抜結果連絡法	本人・指導教員には e-mail で連絡、教務掛に許可証を郵送します。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	藻類と海浜植物の系統と進化		
実習内容	<p>I. 海藻の分類と生態</p> <p>白浜の番所崎に生育する海藻類の分類・形態の観察（磯採集と実験室での光学顕微鏡をもちいた観察）・番所崎でのタイドプール内における海藻類分布調査・野外調査とデータのまとめ・海藻の標本作製</p> <p>II. 海草類や海浜植物の分類と適応</p> <p>野外（番所山および実験所周辺）での海浜植物の観察と調査・適応現象に関連する調査とまとめ・維管束植物の標本作製</p>		
実習内容キーワード	海藻、海草、海浜植物、形態、生態、タイドプール		
担当教員氏名・所属・役職名	下村通誉（教授）・中野智之（准教授）・河村真理子（講師）・後藤龍太郎（助教）・山守瑠奈（助教）		
協力教員氏名・所属・役職名	布施静香（京都大学理学研究科・教授）・高橋晃太郎（京都大学理学研究科・助教） 倉島 彰（三重大学生物資源学研究科・教授）		
対象学生・学年	1 回生以上の学部生（院生も可）	開講期間	2027 年 3 月下旬で 4 泊 5 日 （実験所 HP に後日掲載）
開講大学・施設名	京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所		
施設の住所	〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459		
電話	0739-42-3515	F a x	0739-42-4518
e-mail	goto.ryutaro.8n@kyoto-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.seto.kyoto-u.ac.jp">https://www.seto.kyoto-u.ac.jp</a>
交通案内	<p>①鉄道：新大阪・大阪・天王寺方面から JR 紀勢本線「白浜駅」下車。明光バスに乗り換え「臨海」下車すぐ、あるいは明光バス「白浜バスセンター」下車。</p> <p>②東京・大阪から、白浜までの高速バスあり。 （「明光バス」ホームページ参照）</p>		
費用	滞在費（宿泊費・昼夕食費）：約 11,000 円（交通費は別途、朝食は各自用意）		
授業科目名	藻類と海浜植物の系統と進化		
単位数	2 単位相当 （受講証明発行）	定員数	10 名
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	なるべく所属が重ならないよう配慮します。学部生を優先します。 申込締切：2027 年 1 月 15 日（金）		
選抜結果連絡法	本人・指導教員には e-mail で連絡、教務掛に許可証を郵送します。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	沿岸域生態系多様性実習		
実習内容	<p>和歌山県白浜町の潮間帯、河口、および河川（中流と溪流）の多様な環境において生物調査と環境測定を実施し、それぞれの場所における生物相とそれを取りまく環境の違いを理解した上で、沿岸域生態系のつながりを考えることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>各調査場所において、ベントス・プランクトンの採集および水質測定（底質・水温・塩分・pH・各種パックテストによる化学物質測定）を行う。</li> <li>生物は実験室に持ち帰り、観察と同定を行って、出現生物のリストを作成する。</li> <li>班ごとに出現生物と水質データをまとめ、調査場所の環境がどのようなものか、隣接する生態系のつながりにはどのようなものがあるかを議論する。</li> <li>班ごとに議論の結果を発表し、沿岸域生態系への理解を深める。</li> </ol>		
実習内容キーワード	ベントス、プランクトン、生物相、水質分析、生態系のつながり		
担当教員氏名・所属・役職名	下村通誉（教授）・中野智之（准教授）・河村真理子（講師）・後藤龍太郎（助教）・山守瑠奈（助教）		
協力教員氏名・所属・役職名	なし		
対象学生・学年	1 回生以上の学部生（院生も可）	開講期間	2027 年 3 月 8 日～13 日
開講大学・施設名	京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所		
施設の住所	〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459		
電話	0739-42-3515	F a x	0739-42-4518
e-mail	goto.ryutaro.8n@kyoto-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.seto.kyoto-u.ac.jp">https://www.seto.kyoto-u.ac.jp</a>
交通案内	<p>①鉄道：新大阪・大阪・天王寺方面から JR 紀勢本線「白浜駅」下車。明光バスに乗り換え「臨海」下車すぐ、あるいは明光バス「白浜バスセンター」下車。</p> <p>②東京・大阪から、白浜までの高速バスあり。</p> <p>（「明光バス」ホームページ参照）</p>		
費用	滞在費（宿泊費・食費等）：約 13,500 円（交通費は別途、朝食は各自用意）		
授業科目名	沿岸域生態系多様性実習		
単位数	2 単位相当 (受講証明発行)	定員数	10 名
授業料の徴収について	京都大学理学部の特別聴講学生として申し込めば、理学部科目としての単位が認定されます。この場合、京都大学の規程により、公立大学・私立大学の方は、29,600 円の授業料が必要となります。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>なるべく所属が重ならないよう配慮します。学部生を優先します。</p> <p>申込締切：2027 年 1 月 15 日（金）（特別聴講学生の締切：2026 年 11 月 13 日（金））</p>		
選抜結果連絡法	本人・指導教員には e-mail で連絡、教務掛に許可証を郵送します。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	専門 A コース「海産藻類の生物学」		
実習内容	<p>沿岸域の一次生産者である海藻類，および植物プランクトン（微細藻類）の多様性を学び，大阪湾の生物多様性について考える。スノーケリング希望者には，初心者講習も実施する。</p> <p>(1) 海藻類の野外観察と採集：スノーケリング等を行い海藻類の観察と採集を行う。</p> <p>(2) 海藻の外部形態や組織の観察を行い，種同定について学ぶ。押し葉標本を作製する。</p> <p>(3) 水質調査（透明度，光量子，塩分等）を行い，大阪湾の海洋環境について学ぶ。</p> <p>(4) プランクトン採集を行い，光学顕微鏡で微細藻類を観察する。</p> <p>(5) 薄層クロマトグラフィーとカラムクロマトグラフィーを使って，光合成色素の多様性について学ぶ。</p>		
実習内容キーワード	海藻，植物プランクトン，組織・細胞，光合成色素，海洋環境		
担当教員氏名・所属・役職名	上井進也・教授 大沼亮・講師 星野雅和・助教（いずれも神戸大学・内海域環境教育研究センター） 渡部雅博・神戸大学理学部・非常勤講師		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	理系学部 1 年～4 年	開講期間	2026 年 8 月 11 日～15 日
開講大学・施設名	神戸大学・内海域環境教育研究センター・マリンサイト（岩屋）		
施設の住所	〒656-2401 兵庫県淡路市岩屋 2746		
電話	0799-72-2374	F a x	0799-72-2950
e-mail	rcis-marine_site@research.kobe-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/index.htm">https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/index.htm</a>
交通案内	明石港（JR 明石駅から徒歩 10 分）から高速船（ジェノバライン）に乗船（40 分間隔で運航，乗船時間 13 分）。岩屋港から徒歩 15 分。アクセスについては，web サイトも参考にすること。		
費用	宿泊費・食費を含め約 1 万円		
授業科目名	公開臨海実習専門 A コース		
単位数	1	定員数	10
授業料の徴収について	授業料としては徴収しない。宿泊・食費等の実費のみ徴収する。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>定員超過の場合は，基本先着順とする。ただし，受講者が特定の大学に集中しないように選抜を行う場合がある。</p> <p>応募に際しては，所属大学教務係を通して応募書類を提出するとともに，応募者本人から rcis-marine_site@research.kobe-u.ac.jp へ応募について連絡すること。</p> <p>その他，必要な項目については下記サイトで確認すること。</p> <p><a href="https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/opencourse_a1.htm">https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/opencourse_a1.htm</a></p> <p>申し込み締め切：2026 年 7 月 6 日（月）</p>		
選抜結果連絡法	所属大学教務係への郵送，および申込学生へのメール通知		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	専門 B コース「淡水域-河口域の生物群集と生態」		
実習内容	<p>集水域を構成する多様な生態系の連環（つながり）のしくみを理解し、それぞれの生態系における生物多様性の維持・創出機構や生態系機能を明らかにすることは、内海域を総合的に保全する上で重要である。マリンサイトの位置する淡路島の集水域は、森林・農地・湖沼（ため池）が河川を通じて河口・沿岸域と連結し、比較的小さな空間スケールでダイナミックに景観が変化する特徴をもつ。本実習では、この地理的特性を生かして、集水域生態系の野外調査を実施し、以下の課題について理解を深めることを目的とする。</p> <p>(1) 河川やため池に生息する生物群集の基礎的な調査手法について学ぶ。</p> <p>(2) 人間活動、特に、土地利用様式がため池の生物多様性に及ぼす影響、並びに、河川の生物群集の摂餌機能群が流程とともに変化するしくみについて考察する。</p>		
実習内容キーワード	集水域生態系, 河川連続体概念, 生物多様性, 環境指標生物, 人為攪乱		
担当教員氏名・所属・役職名	奥田昇・教授 坂山英俊・准教授 辻かおる・准教授 (いずれも神戸大学・内海域環境教育研究センター)		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	理系学部 1 年～4 年	開講期間	2026 年 8 月 31 日～9 月 4 日
開講大学・施設名	神戸大学・内海域環境教育研究センター・マリンサイト (岩屋)		
施設の住所	〒656-2401 兵庫県淡路市岩屋 2746		
電話	0799-72-2374	F a x	0799-72-2950
e-mail	rcis-marine_site@research.kobe-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/index.htm">https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/index.htm</a>
交通案内	明石港 (JR 明石駅から徒歩 10 分) から高速船 (ジェノバライン) に乗船 (40 分間隔で運航, 乗船時間 13 分)。岩屋港から徒歩 15 分。アクセスについては, web サイトも参考にすること。		
費用	宿泊費・食費を含め約 1 万円		
授業科目名	公開臨海実習専門 B コース		
単位数	1	定員数	10
授業料の徴収について	授業料としては徴収しない。宿泊・食費等の実費のみ徴収する。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>定員超過の場合は、基本先着順とする。ただし、受講者が特定の大学に集中しないように選抜を行う場合がある。</p> <p>応募に際しては、所属大学教務係を通して応募書類を提出するとともに、応募者本人から rcis-marine_site@research.kobe-u.ac.jp へ応募について連絡すること。</p> <p>その他、必要な項目については下記サイトで確認すること。  <a href="https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/opencourse_b1.htm">https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/opencourse_b1.htm</a>          申し込み締め切：2026 年 6 月 30 日 (水)</p>		
選抜結果連絡法	所属大学教務係への郵送, および申込学生へのメール通知		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	基礎コース「閉鎖性海域の沿岸環境」		
実習内容	<p>大阪湾における海洋生物（主に海藻類・微細藻類）の採集，観察を行うとともに，その集水域にある河川での野外実習および水生動物の観察を実施する。また，水環境に影響を与える化学物質のバイオアッセイなどの室内実験を行う。これらの実習を通し，閉鎖性海域とそれを取り巻く集水域の環境について考える。</p> <p>(1) 海藻類の生育環境を観察し，採集・種同定を行う。  (2) 大阪湾のプランクトンを採集し，観察を行う。  (3) 河川の水生動物を採集し，観察を行う。  (4) 水生生物を用いた環境汚染物質のバイオアッセイを行う。</p>		
実習内容キーワード	大阪湾，沿岸生態系，海藻，プランクトン，ベントス，集水域生態系，バイオアッセイ		
担当教員氏名・所属・役職名	奥田昇・教授 上井進也・教授 坂山英俊・准教授 辻かおる・准教授 林美鶴・准教授 堀江好文・教授 大沼亮・講師 星野雅和・助教 小林格・助教（いずれも神戸大学・内海域環境教育研究センター）		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	学部 1 年～3 年 (理系・文系)	開講期間	2027 年 3 月 23 日～27 日
開講大学・施設名	神戸大学・内海域環境教育研究センター・マリンサイト（岩屋）		
施設の住所	〒656-2401 兵庫県淡路市岩屋 2746		
電話	0799-72-2374	F a x	0799-72-2950
e-mail	rcis-marine_site@research.kobe-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/index.htm">https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/index.htm</a>
交通案内	明石港（JR 明石駅から徒歩 10 分）から高速船（ジェノバライン）に乗船（40 分間隔で運航，乗船時間 13 分）。岩屋港から徒歩 15 分。アクセスについては，web サイトも参考にすること。		
費用	宿泊費・食費を含め約 1 万円		
授業科目名	公開臨海実習基礎コース		
単位数	1	定員数	10
授業料の徴収について	授業料としては徴収しない。宿泊・食費等の実費のみ徴収する。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>定員超過の場合は，基本先着順とする。ただし，受講者が特定の大学に集中しないように選抜を行う場合がある。</p> <p>応募に際しては，所属大学教務係を通して応募書類を提出するとともに，応募者本人から rcis-marine_site@research.kobe-u.ac.jp へ応募について連絡すること。</p> <p>その他，必要な項目については下記サイトで確認すること。  <a href="https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/opencourse_d1.htm">https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/opencourse_d1.htm</a>  申し込み締切：2027 年 2 月 1 日（月）</p>		
選抜結果連絡法	所属大学教務係への郵送，および申込学生へのメール通知		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	専門 C コース「大阪湾の水質と海底堆積物」		
実習内容	<p>海洋観測と海底堆積物の有害性評価から大阪湾の海水環境の特性を探る。大阪湾の海水環境は東部に位置する湾奥部停滞水域と、外洋水の影響を受けている西部の混合水域とで大きく異なる。この海水環境は海底堆積物にも反映されている。本実習では、調査実習船を使った海洋観測と海底堆積物中の汚染物質の分析、底生動物の観察などを行って、大阪湾の海水環境の特性を知る。また、実習を通して、海洋観測の手法や海底堆積物から海水環境を調べる方法などを経験し、海洋環境解析の理解を深める。</p> <p>(1) 調査実習船「おのころ」による大阪湾海洋観測，堆積物採取。  (2) 海洋観測データの解析。  (3) 海底堆積物中の汚染物質の分析。  (4) 底生動物の観察。  (5) 実習成果の発表を行う。</p>		
実習内容キーワード	海水環境，海底堆積物，海洋観測，大阪湾，バイオアッセイ，海洋バクテリア		
担当教員氏名・所属・役職名	堀江好文・教授 林美鶴・准教授 小林格・助教（いずれも神戸大学・内海域環境教育研究センター）		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	理系学部 1 年～4 年	開講期間	2026 年 9 月 14 日～18 日
開講大学・施設名	神戸大学・内海域環境教育研究センター・マリンサイト（岩屋）		
施設の住所	〒656-2401 兵庫県淡路市岩屋 2746		
電話	0799-72-2374	F a x	0799-72-2950
e-mail	rcis-marine_site@research.kobe-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/index.htm">https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/index.htm</a>
交通案内	明石港（JR 明石駅から徒歩 10 分）から高速船（ジェノバライン）に乗船（40 分間隔で運航，乗船時間 13 分）。岩屋港から徒歩 15 分。アクセスについては，web サイトも参考にすること。		
費用	宿泊費・食費を含め約 1 万円		
授業科目名	公開臨海実習専門 C コース		
単位数	1	定員数	10
授業料の徴収について	授業料としては徴収しない。宿泊・食費等の実費のみ徴収する。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>定員超過の場合は，基本先着順とする。ただし，受講者が特定の大学に集中しないように選抜を行う場合がある。</p> <p>応募に際しては，所属大学教務係を通して応募書類を提出するとともに，応募者本人から rcis-marine_site@research.kobe-u.ac.jp へ応募について連絡すること。</p> <p>その他，必要な項目については下記サイトで確認すること。  <a href="https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/opencourse_c1.htm">https://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/kyoten2020/opencourse_c1.htm</a>  申し込み締切：2026 年 7 月 13 日（月）</p>		
選抜結果連絡法	所属大学教務係への郵送，および申込学生へのメール通知		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	瀬戸内海潮間帯の海洋動物		
実習内容	<p>海に展開されている動物の世界に触れ、その多様性を実感してもらう。(1)磯採集、プランクトン採集、灯火採集など、様々な方法により海産動物を採集、観察する(初歩的な系統分類、生態学実習)。(2)ウニ初期発生(初歩的な発生学実習)。(3)その他に行動内分泌を対象とした実習を行う予定。</p> <p>9月6日(日) 午後6時までに実験所集合。懇親会。            9月7日(月) 午前 講義(動物の系統、進化等)。午後 磯採集(岩礁海岸)。灯火採集。            9月8日(火) 午前 プランクトン採集、観察。午後 磯採集(砂泥海岸)。            9月9日(水) ウニの発生。            9月10日(木) 行動内分泌実習。ニハイチュウの観察。            9月11日(金) レポート作成。清掃後解散(午前中)。</p> <p>午前中(9時開始)は主にプランクトン、ウニの発生など顕微鏡を用いた観察を行う。磯採集には船で付近の島へ行くが、瀬戸内海は干潮時刻が遅いため、午後行うことになる。その後採集した動物についての説明、観察、スケッチなどを行う。</p>		
実習内容キーワード	磯採集 ウニ 魚類 行動内分泌 発生 系統発生 生物多様性		
担当教員氏名・所属・役職名	濱田 麻友子・岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域・教授 坂本 竜哉・岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域・教授 安齋 賢・岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域・教授 秋山 貞・岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域・助教 中村 遼・岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域・助教		
協力教員氏名・所属・役職名	坂上登亮・中央研究院(台湾)・研究員		
対象学生・学年	学部 1-4 年生	開講期間	9月6日夜-9月11日昼
開講大学・施設名	岡山大学理学部附属牛窓臨海実験所		
施設の住所	〒701-4303 岡山県瀬戸内市牛窓町鹿忍 130-17		
電話	0869-34-5210	F a x	0869-34-5211
e-mail	sc19412@s.okayama-u.ac.jp (齊藤 和裕 技術専門職員)	Web Site	http://www.science.okayama-u.ac.jp/~rinkai/ushi.htm
交通案内	[JR]岡山駅から赤穂線 25 分、邑久(おく) 駅下車。牛窓行きバス 20 分、紺の浦(役場前) 下車。ヨットハーバー方面へ向かい海沿い徒歩 20 分。[車]ブルーラインに入り、邑久インターから表示板に従ってヨットハーバーへ。ハーバー前を通過後わずか。場合によっては連絡すれば最寄りの駅等まで迎えに行く。		
費用	食費等約 15,000 円		
授業科目名	臨海実習 II		
単位数	2 単位	定員数	15 名
授業料の徴収について	国立大学法人に限らず、公立・私立大学の学生からも不徴収		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	原則申し込み順 6 月末の予定		
選抜結果連絡法	必要な携行物等とともに e-mail や郵便で連絡する。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	公開臨海実習《生物モニタリングコース》		
実習内容	<p>3泊4日の集中形式で、以下の内容を実施予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物の生態学的・形態学的多様性の講義</li> <li>2. 潮間帯を中心にした無人島での海産動物の観察・採集</li> <li>3. プランクトンの採集と観察・記録</li> <li>4. 観察・採集した海産動物の同定</li> <li>5. 環境試料からの DNA 抽出</li> </ol> <p>オンライン合同発表会では、実習で行なった解析等の結果を参加者各自が発表し、他コースの参加者を交えた総合討論を行う。</p> <p>※実習の詳細は、以下のウェブページに掲載予定。  <a href="https://www.hiroshima-u.ac.jp/rinkai/course">https://www.hiroshima-u.ac.jp/rinkai/course</a></p>		
実習内容キーワード	生物多様性、生物採集、野外調査、系統進化、比較発生		
担当教員氏名・所属・役職名	田川訓史・広島大学瀬戸内 CN 国際共同研究センター・准教授 有本飛鳥・広島大学瀬戸内 CN 国際共同研究センター・助教		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	学部 2～4 年 修士, 博士	開講期間	対面実習：2026/8/25～8/28 オンライン発表会：2026/9/11
開講大学・施設名	広島大学 瀬戸内 CN 国際共同研究センター ブルーイノベーション部門 臨海実験所		
施設の住所	〒722-0073 広島県尾道市向島町 2445 番地		
電話	0848-44-1143	F a x	
e-mail	rinkai@hiroshima-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.hiroshima-u.ac.jp/rinkai">https://www.hiroshima-u.ac.jp/rinkai</a>
交通案内	JR 尾道駅より駅前渡船を利用、向島側の渡船発着場と実験所間は送迎 (詳細は実習内容のウェブページを確認のこと)		
費用	実験所までの往復交通費及び実験所における生活費 (8,000 円程度) を各自負担		
授業科目名	公開臨海実習		
単位数	2	定員数	15 名程度
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>・応募者数が定員数を超えた場合、出願理由等による書類選考を行う。          ・当実験所で開講される公開臨海実習は別日開催のコースを複数受講することが可能だが、認定単位は1コース分(2単位)のみとなる。          ・授業に関連して受講者が収集・作成し、提出したデータ・課題等については、今後、臨海実験所(広島大学)の教材等として利用・公表することがある。なお、この授業科目の履修希望を提出した時点で、以上の内容に同意したものとして取り扱う。</p> <p>申し込み締め切り：2026/7/2 (必着)</p>		
選抜結果連絡法	郵送		

## 令和8年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	公開臨海実習《進化発生・オミクス解析コース》		
実習内容	<p>4泊5日の集中形式で、以下の内容を実施予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受精・発生・進化に関する講義（一部英語で実施）</li> <li>2. 新口動物（ウニ・ホヤ・ギボシムシ・ナメクジウオなど）の発生観察と解剖</li> <li>3. 発生における遺伝子発現やその制御に関する次世代シーケンス解析</li> </ol> <p>オンライン合同発表会では、実習で行なった解析等の結果を参加者各自が発表し、他コースの参加者を交えた総合討論を行う。</p> <p>※実習の詳細は、以下のウェブページに掲載予定。  <a href="https://www.hiroshima-u.ac.jp/rinkai/course">https://www.hiroshima-u.ac.jp/rinkai/course</a></p>		
実習内容キーワード	受精、発生、進化、無腸動物、棘皮動物、半索動物、脊索動物、新口動物、比較発生、遺伝子発現解析		
担当教員氏名・所属・役職名	田川訓史・広島大学瀬戸内 CN 国際共同研究センター・准教授 有本飛鳥・広島大学瀬戸内 CN 国際共同研究センター・助教		
協力教員氏名・所属・役職名	山本卓・広島大学大学院統合生命科学研究科・教授 坂本尚昭・広島大学大学院統合生命科学研究科・准教授 他、北海道大学、東北大学、お茶の水女子大学、東京大学、筑波大学、島根大学、台湾中央研究院から協力教員を招聘予定		
対象学生・学年	学部2～4年 修士、博士	開講期間	対面実習：2026/8/17～8/21 オンライン発表会：2026/9/11
開講大学・施設名	広島大学 瀬戸内 CN 国際共同研究センター ブルーイノベーション部門 臨海実験所		
施設の住所	〒722-0073 広島県尾道市向島町 2445 番地		
電話	0848-44-1143	F a x	
e-mail	rinkai@hiroshima-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.hiroshima-u.ac.jp/rinkai">https://www.hiroshima-u.ac.jp/rinkai</a>
交通案内	JR 尾道駅より駅前渡船を利用、向島側の渡船発着場と実験所間は送迎 (詳細は実習内容のウェブページを確認のこと)		
費用	実験所までの往復交通費及び実験所における生活費 (9,500 円程度) を各自負担		
授業科目名	公開臨海実習		
単位数	2	定員数	15 名程度
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>・応募者数が定員数を超えた場合、出願理由等による書類選考を行う。</p> <p>・当実験所で開講される公開臨海実習は別日開催のコースを複数受講することが可能だが、認定単位は1コース分(2単位)のみとなる。</p> <p>・授業に関連して受講者が収集・作成し、提出したデータ・課題等については、今後、臨海実験所(広島大学)の教材等として利用・公表することがある。なお、この授業科目の履修希望を提出した時点で、以上の内容に同意したものとして取り扱う。</p> <p>申し込み締め切り：2026/7/2 (必着)</p>		
選抜結果連絡法	郵送		

## 令和8年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	公開臨海実習《進化発生・ゲノム編集コース》		
実習内容	<p>4泊5日の集中形式で、以下の内容を実施予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受精・発生・進化・ゲノム編集に関する講義（一部英語で実施）</li> <li>2. 新口動物（ウニ・ホヤ・ギボシムシ・ナメクジウオなど）の発生観察と解剖</li> <li>3. ゲノム編集等の遺伝子機能解析実験</li> </ol> <p>オンライン合同発表会では、実習で行なった解析等の結果を参加者各自が発表し、他コースの参加者を交えた総合討論を行う。</p> <p>※実習の詳細は、以下のウェブページに掲載予定。  <a href="https://www.hiroshima-u.ac.jp/rinkai/course">https://www.hiroshima-u.ac.jp/rinkai/course</a></p>		
実習内容キーワード	受精、発生、進化、無腸動物、棘皮動物、半索動物、脊索動物、新口動物、比較発生、ゲノム編集、ゲノム解析		
担当教員氏名・所属・役職名	田川訓史・広島大学瀬戸内 CN 国際共同研究センター・准教授 有本飛鳥・広島大学瀬戸内 CN 国際共同研究センター・助教		
協力教員氏名・所属・役職名	山本卓・広島大学大学院統合生命科学研究科・教授 坂本尚昭・広島大学大学院統合生命科学研究科・准教授 他、北海道大学、東北大学、お茶の水女子大学、東京大学、筑波大学、島根大学、台湾中央研究院から協力教員を招聘予定		
対象学生・学年	学部2～4年 修士、博士	開講期間	対面実習：2026/8/17～8/21 オンライン発表会：2026/9/11
開講大学・施設名	広島大学 瀬戸内 CN 国際共同研究センター ブルーイノベーション部門 臨海実験所		
施設の住所	〒722-0073 広島県尾道市向島町 2445 番地		
電話	0848-44-1143	F a x	
e-mail	<a href="mailto:rinkai@hiroshima-u.ac.jp">rinkai@hiroshima-u.ac.jp</a>	Web Site	<a href="https://www.hiroshima-u.ac.jp/rinkai">https://www.hiroshima-u.ac.jp/rinkai</a>
交通案内	JR 尾道駅より駅前渡船を利用、向島側の渡船発着場と実験所間は送迎 (詳細は実習内容のウェブページを確認のこと)		
費用	実験所までの往復交通費及び実験所における生活費 (9,500 円程度) を各自負担		
授業科目名	公開臨海実習		
単位数	2	定員数	15 名程度
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>・応募者数が定員数を超えた場合、出願理由等による書類選考を行う。</p> <p>・当実験所で開講される公開臨海実習は別日開催のコースを複数受講することが可能だが、認定単位は1コース分(2単位)のみとなる。</p> <p>・授業に関連して受講者が収集・作成し、提出したデータ・課題等については、今後、臨海実験所(広島大学)の教材等として利用・公表することがある。なお、この授業科目の履修希望を提出した時点で、以上の内容に同意したものとして取り扱う。</p> <p>申し込み締め切り：2026/7/2 (必着)</p>		
選抜結果連絡法	郵送		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	隠岐臨海 A コース「隠岐の島の自然と海洋生物」		
<p>実習内容：磯生物の採集を通して身近な海洋生物の多様性、特に日本海島嶼域の海洋生物相について体感し理解を深めるとともに、自ら採集した海産動物を使って基礎的な動物生理学、動物行動学の実験を体験します。</p> <p>【磯生物の生態観察】隠岐の島の潮上帯から潮下帯までの磯生物をシュノーケリングにより観察し、観察と同定を通して各動物の分布、形態学的特徴や生活形について理解します。採集方法は海況に合わせ、船上からの採集（採泥やドレッジ）、シュノーケリング、および夜間灯火採集などを行います。できる限り多くの動物門の観察を目指します。（*シュノーケリングの際には、ウエットスーツを着用します。）</p> <p>【海洋生物を使った生理学・行動学実験】自ら採集した海産動物を使って動物生理学・行動学の基礎的な実験生物学を体験します。精密酸素消費量測定による代謝量と体重のアロメトリーをテーマに観察・実験を行います。</p>			
実習内容キーワード	シュノーケリング、系統分類学、動物生理学、スケーリング、理科教育		
担当教員氏名・所属・役職名	吉田真明・島根大学生物資源教育研究センター・教授 小野廣記・島根大学生物資源教育研究センター・助教		
協力教員氏名・所属・役職名	仲矢史雄・大阪教育大学科学教育センター・教授 山崎博史・九州大学基幹教育院 自然科学実験系部門・助教 藤本心太・山口大学大学院創成科学研究科・助教		
対象学生・学年	原則学部 2-4 年 大学院生は応相談	開講期間	8 月 25 日（火）- 8 月 28 日（金） (3 泊 4 日)
開講大学・施設名	島根大学・生物資源教育研究センター（隠岐臨海実験所）		
施設の住所	〒685-0024 島根県隠岐郡隠岐の島町加茂 194		
電話	08512-2-1814	F a x	08512-2-4357
e-mail	okimbs@life.shimane-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.ipc.shimane-u.ac.jp/ercbr/jikkenjo/index.html">https://www.ipc.shimane-u.ac.jp/ercbr/jikkenjo/index.html</a>
交通案内	松江から隠岐へ：松江駅バスのりば 9 より七類港へ（隠岐汽船連絡バス：7 時 50 分発）。七類港より西郷港までフェリーおき（9 時 00 分発）で 2 時間 25 分。他に高速船・空路があり、詳しくは実験所 HP を参照して下さい。なお、公開臨海実習参加者は西郷港まで送迎する予定です。下記選抜結果の通知と合わせて来島方法と時間についてお尋ねします。		
費用	8,000～9,000 円程度（宿泊費および食費）		
授業科目名	臨海実習 IV		
単位数	1 単位	定員数	10 名程度
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	申し込み時に提出する書類で選考。2026 年 6 月 26 日(金)消印有効体力面を鑑みて、原則 60 歳までの年齢制限といたします。 応募者多数の場合、男女比と大学ごとの人数を考慮して判断します。		
選抜結果連絡法	郵送。締切後 1 週間を目処にメールにて内定をお知らせします。夏休みなどいつでも連絡のつくメールアドレスの記入をお願いします。手書きのメールの判読不良があり、メールが届かないことがありますので、連絡がない時は問い合わせをお願いします。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	隠岐臨海 B コース「海洋生物の繁殖行動と父性解析」		
<p>実習内容：動物は繁殖成功のために巧みな戦略的配偶行動をとることが知られています。本実習では、海産動物の繁殖行動について野外実験と室内実験の両方を通してその意味を考えます。野外実験では実際の繁殖行動観察の他、繁殖成功率を変化させるための工作の課題もあります。また、室内実験では繁殖行動に応じた受精様式の変化について理解するために解剖や父性解析を行います。</p> <p>【魚類の繁殖生態】おもな対象魚種はニジギンポを用います。実習テーマ:1)雄の配偶成功に与える要因、2)性の役割の逆転、などを行います。水中観察の際には全員ウエットスーツを着用します。スノーケリングの経験は問いません。</p> <p>【頭足類の繁殖生態】ケンサキイカ、ホタルイカ、ホタルイカモドキ等を用います。実習テーマ:1)繁殖様式と形態観察、2)雌をめぐる雄間の競争、3)スニーカー雄の適応戦略、4)父性解析の実践などの講義と実習を行います。</p> <p>* 生体の生息・繁殖状況や入手状況により、対象種や実習内容を変更する場合があります。</p>			
実習内容キーワード	シュノーケリング、配偶、代替生殖戦略、配偶様式、父性解析		
担当教員氏名・所属・役職名	小野廣記・島根大学生物資源教育研究センター・助教 広橋教貴・島根大学生物資源科学部・教授		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	原則学部 2-4 年 大学院生は応相談	開講期間	8 月 20 日 (木) - 8 月 23 日 (日) (3 泊 4 日)
開講大学・施設名	島根大学・生物資源教育研究センター (隠岐臨海実験所)		
施設の住所	〒685-0024 島根県隠岐郡隠岐の島町加茂 194		
電話	08512-2-1814	F a x	08512-2-4357
e-mail	hiro@life.shimane-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.ipc.shimane-u.ac.jp/ercbr/jikkenjo/index.html">https://www.ipc.shimane-u.ac.jp/ercbr/jikkenjo/index.html</a>
交通案内	【フェリー・高速船での来島】七類港もしくは境港から西郷港へ。【航空機での来島】大阪伊丹空港もしくは出雲空港から隠岐世界ジオパーク空港へ。詳しくは実験所 HP を参照して下さい。		
費用	8,000～9,000 円程度 (宿泊費および食費)		
授業科目名	臨海実習 V		
単位数	1 単位	定員数	8 名
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	申し込み時に提出する書類で選考。2026 年 6 月 26 日(金)消印有効体力面を鑑みて、原則 60 歳までの年齢制限といたします。 応募者多数の場合、男女比と大学ごとの人数を考慮して判断します。		
選抜結果連絡法	郵送。締切後 1 週間を目処にメールにて選考の結果をお知らせします。いつでも連絡のつくメールアドレスの記入をお願いします。手書きのメールの誤記や判読不良が多く、メールが届かないことがありますので、連絡がない時は問い合わせをお願いします。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	隠岐臨海 C コース「隠岐フルコース」		
<p>実習内容：隠岐臨海で開催される A・B コースを通じて参加し、隠岐諸島を満喫し、日本海島嶼域への理解を深める。</p> <p>隠岐臨海 A コース「隠岐の島の自然と海洋生物」8月25日（火）-8月28日（金）</p> <p>隠岐臨海 B コース「海洋生物の繁殖行動と父性解析」8月20日（木）-8月23日（日）</p> <p>A・B コースの間の中日は、島内や島前への観光など自由時間とします。実験所への宿泊は可能としますが、所外での活動は自己の責任において行動してください。宿泊希望については選抜結果の連絡の際にお聞きして確認します。</p> <p>* A・B コースのそれぞれの内容はそれぞれの実施計画を参照してください。</p>			
実習内容キーワード	シュノーケリング、系統分類学、動物生理学、スケーリング、理科教育		
担当教員氏名・所属・役職名	吉田真明・島根大学生物資源教育研究センター・教授 小野廣記・島根大学生物資源教育研究センター・助教 広橋教貴・島根大学生物資源科学部・教授		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	原則学部 2-4 年 大学院生は応相談	開講期間	8月20日（木）-8月28日（金）
開講大学・施設名	島根大学・生物資源教育研究センター（隠岐臨海実験所）		
施設の住所	〒685-0024 島根県隠岐郡隠岐の島町加茂 194		
電話	08512-2-1814	F a x	08512-2-4357
e-mail	okimbs@life.shimane-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://www.ipc.shimane-u.ac.jp/ercbr/jikkenjo/index.html">https://www.ipc.shimane-u.ac.jp/ercbr/jikkenjo/index.html</a>
交通案内	松江から隠岐へ：松江駅バスのりば 9 より七類港へ(隠岐汽船連絡バス：7 時 50 分発)。七類港より西郷港までフェリーおき(9 時 00 分発)で 2 時間 25 分。他に高速船・空路があり、詳しくは実験所 HP を参照して下さい。なお、公開臨海実習参加者は西郷港まで送迎する予定です。下記選抜結果の通知と合わせて来島方法と時間についてお尋ねします。		
費用	15,000～18,000 円程度 (宿泊費および食費)		
授業科目名	臨海実習 IV・臨海実習 V		
単位数	1 単位	定員数	若干名
授業料の徴収について	なし		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	申し込み時に提出する書類で選考。2026 年 6 月 26 日(金)消印有効体力面を鑑みて、原則 60 歳までの年齢制限といたします。 応募者多数の場合、男女比と大学ごとの人数を考慮して判断します。		
選抜結果連絡法	郵送。締切後 1 週間を目処にメールにて内定をお知らせします。連絡のつくメールアドレスの記入をお願いします。手書きのメールの判読不良があり、メールが届かないことがありますので、連絡がない時は問い合わせをお願いします。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	黒潮流域の海産動植物の生物学		
実習内容	<p>施設周辺の海域や藻場の動植物を野外で採集・観察し、採集した動植物の形態観察、種の同定、定量化を実験室で行うことによって黒潮流域生物相の多様性と動態を理解し、フィールド生物学の基礎を学ぶ。</p> <p>○魚卵・稚仔魚の採集・同定および海洋観測</p> <p>○動・植物プランクトン・ベントスの採集と観察</p> <p>○海藻の採集・組織の観察</p> <p>など</p>		
実習内容キーワード	魚卵仔稚魚, プランクトン, ベントス, 海藻, 海洋観測		
担当教員氏名・ 所属・役職名	平岡雅規・斉藤知己 海洋生物研究教育施設 教授 伊谷行 教育学部 教授 岡村慶 農林海洋科学部 教授 菅原拓也 海洋生物研究教育施設 特任助教		
協力教員氏名・ 所属・役職名	平賀洋之 河川水生動物調査 代表		
対象学生・学年	学部学生 (院生も可)	開講期間	令和 9 年 3 月 5 日～3 月 11 日 (集合は実習初日 16 時, 解散は実習最終日 12 時)
開講大学・施設名	高知大学 総合研究センター 海洋生物研究教育施設		
施設の住所	〒781-1164 高知県土佐市宇佐町井尻 194		
電話	088-856-0422	F a x	088-856-0425
e-mail	src6@kochi-u.ac.jp	Web Site	<a href="http://www.kochi-u.ac.jp/kaiyo/">http://www.kochi-u.ac.jp/kaiyo/</a>
交通案内	J R 土讃線高知駅または朝倉駅下車, 駅前よりとさでん交通(株)バス「高岡」行き乗車, 「中島」で土佐市ドラゴンバスに乗り換え「宮前スカイライン入口」下車, そこから橋を渡り徒歩 10 分。		
費用	食費, 宿泊費 15,100 円		
授業科目名	公開臨海実習		
単位数	2	定員数	15
授業料の徴収について	公私立大の学生は単位を希望しなければ徴収しない		
受講生選抜基準と 申し込み締め切り	先着順, 定員を越えた場合は選考		
選抜結果連絡法	所属大学事務を通じて結果を本人に連絡する (早急に知りたい場合は上記の e-mail に問い合わせてください)		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	大学公開実習 A (海洋環境生物学)		
実習内容：海洋環境生物学実習 (状況により予定が変更される場合がある。下記 Web Site などで確認する事)			
(1) マリンステーション周辺の干潟や潮下帯で採集した堆積物中から細菌や線虫類などのメイオベントスを抽出し、顕微鏡などを用いて観察し、これら微小生物相と海底環境の相関を調べる。さらに活性染色法を用いて、海底堆積物中における細菌の生理状態を視覚的に観察する。 (2) 八代海を南北に横切る測線に沿って、水温・塩分などの水平・鉛直分布を調べ、海洋環境とプランクトンの群集組成との関係を、解析ソフトを用いて調べる。赤潮原因プランクトンや動物プランクトンを生物顕微鏡や電子顕微鏡を用いて観察する。 (3) その他、海産クマムシやウミホタルの採集や観察も行う。天候に恵まれれば、有明海のミナミハンドウイルカや底魚の生態観察も行う予定である。			
※これらの実習内容は天候などによって、臨機応変に変更する場合がある。詳しい実習内容や持ち物等については実施要項や、下記のホームページを確認すること。			
実習内容キーワード	八代海, 有明海, 干潟, 海洋環境, 植物プランクトン, 動物プランクトン, 赤潮, バクテリア, メイオベントス, クマムシ, ウミホタル, ミナミハンドウイルカ		
担当教員氏名・所属・役職名	嶋永元裕・水循環センター・教授, 山田勝雅・水循環センター・准教授, 吉川晟弘・水循環センター・准教授, 田中源吾・水循環センター・教授・逸見泰久・水循環センター・特任教授		
協力教員氏名・所属・役職名	和田実・長崎大学大学院総合生産科学研究科・教授 一宮睦雄・熊本県立大学環境共生学部・教授		
対象学生・学年	学部 1~4 年生	開講期間	令和 8 年 8 月 21 日~8 月 27 日
開講大学・施設名	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 合津マリンステーション		
施設の住所	〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津 6061		
電話	0969-56-0277	F a x	0969-56-3740
e-mail	publict-ams@kmm.kumamoto-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/marine/aizu_marine_station/">https://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/marine/aizu_marine_station/</a>
交通案内	熊本市内の熊本桜町バスターミナル, またはJR熊本駅前から, 天草(本渡)行きのバス(あまくさ号)に乗り「前島」下車。徒歩 5 分。あまくさ号は 1 時間または 30 分間隔で運行。熊本駅前から約 1 時間半。空港からは, 桜町バスターミナルで乗り換える。		
費用	12,000 円程度(食費・宿泊費など。残金は返却する)		
授業科目名	臨海実習 II		
単位数	2 単位	定員数	12 名
授業料の徴収について	公立・私立大学の学生で、単位取得を希望する学生については、授業料を徴収する。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	申込開始日 (6/30) 10 時よりフォームにて申込後 (先着順で可否を決定する: 定員に達するとフォームに入力・送信することはできません), 各自の所属大学の教務課を通して, 熊本大学に願書を提出してください。 申込フォーム: <a href="https://forms.gle/8Z7j4sbnMQGzWtVYA">https://forms.gle/8Z7j4sbnMQGzWtVYA</a>		
選抜結果連絡法	フォーム送信後に担当教員から受講可否の連絡をします。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	大学公開実習 B (古生物学・地層学)		
実習内容：古生物・地層学実習 (状況により予定が変更される場合がある。下記 Web Site などで確認する事)			
(1) 野外における地層の観察と化石採集 <ul style="list-style-type: none"> <li>・天草上島や御所浦島に分布する古第三系弥勒層群、上部白亜系御所浦層群および姫浦層群において、堆積構造や化石を観察し、ハンマー等を用いて化石を採集する。</li> <li>・ウミホタルやミナミハンドウイルカなどの生態観察をおこなう。</li> </ul>			
(2) 室内での講義と実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・化石化の過程や堆積環境の復元の講義をおこなう。</li> <li>・採集した化石のクリーニングをおこなう。</li> </ul>			
(3) 微化石についての講義と実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・微化石の抽出法と同定法、示準化石・示相化石としての重要性について学ぶ。</li> <li>・電子顕微鏡(SEM)を用いて、微化石の細部の観察と SEM 写真の撮影をおこなう。</li> </ul>			
※詳しい実習内容や持ち物等については実施要項や、下記のホームページを確認すること。			
実習内容キーワード	アンモナイト, イノセラムス, 白亜紀, 古第三紀, 地層, 化石, 博物館		
担当教員氏名・所属・役職名	田中源吾・水循環センター・教授, 嶋永元裕・水循環センター・教授, 山田勝雅・水循環センター・准教授, 吉川晟弘・水循環センター・准教授, 逸見泰久・水循環センター・特任教授		
協力教員氏名・所属・役職名	前田晴良・九州大学総合研究博物館・名誉教授 廣瀬浩司・天草市立御所浦恐竜の島博物館・参事 小松俊文・熊本大学先端科学研究部・教授		
対象学生・学年	学部 1~4 年生	開講期間	令和 8 年 8 月 28 日~9 月 3 日
開講大学・施設名	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 合津マリンステーション		
施設の住所	〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津 6061		
電話	0969-56-0277	F a x	0969-56-3740
e-mail	publict-ams@kmm.kumamoto-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/marine/aizu_marine_station/">https://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/marine/aizu_marine_station/</a>
交通案内	熊本市内の熊本桜町バスターミナル, またはJR熊本駅前から, 天草(本渡)行きのバス(あまくさ号)に乗車し「前島」下車。徒歩 5 分。あまくさ号は 1 時間または 30 分間隔で運行。熊本駅前から約 1 時間半。空港からは, 桜町バスターミナルで乗り換える。		
費用	12,000 円程度(食費・宿泊費など。残金は返却する)		
授業科目名	臨海実習 II		
単位数	2 単位	定員数	12 名
授業料の徴収について	公立・私立大学の学生で, 単位取得を希望する学生については, 授業料を徴収する。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	申込開始日(6/30) 10 時よりフォームにて申込後(先着順で可否を決定する: 定員に達するとフォームに入力・送信することはできません), 各自の所属大学の教務課を通して, 熊本大学に願書を提出してください。 申込フォーム: <a href="https://forms.gle/K4uT8xKDpvhxqema8">https://forms.gle/K4uT8xKDpvhxqema8</a>		
選抜結果連絡法	フォーム送信後に担当教員から受講可否の連絡をします。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	大学公開実習 C (文理融合：化石・古墳・現世)		
実習内容：文理融合型野外実習 (状況により予定が変更される場合がある。下記 Web Site などで確認する事)	<p>(1) 野外における地層の観察と化石採集 (古生物学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上天草に分布する古第三系 弥勒層群と上部白亜系姫浦層群の露頭において、地層中に含まれる堆積構造や化石を観察し、ハンマー等を用いて化石を採集する。</li> </ul> <p>(2) 天草に分布する古墳群の観察 (考古学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古墳群の海上からの観察 ・実際に古墳の中に入り、古墳の構築法・使われている石材等を学ぶ。</li> </ul> <p>(3) 現生の干潟での動物の観察 (海洋生態学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟に生息する、カニ、ヤドカリ、貝類、環形動物、カイアシ類などの行動観察や生態観察、巣穴等の観察を行う。</li> </ul> <p>(4) 現生の潮間帯-潮下帯の動物の観察 (海洋生物学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩礁飛沫帯から潮下帯に生息するシオダマリミジンコや周辺海域に生息するミナミハンドウイルカなどの生態観察や生態・生理学的実習</li> <li>・潮間帯に生息する甲殻類、貝類、刺胞動物の生物間相互作用 (共生関係) について学ぶ</li> </ul> <p>※ 悪天候時には実習内容を変更する場合がある。詳しい実習内容や持ち物等については実施要項や、下記のホームページを確認すること。</p>		
実習内容キーワード	文理融合, 白亜紀, 地層, 化石, 古墳, 沿岸生態系, 干潟, 共生		
担当教員氏名・所属・役職名	山田勝雅・水循環センター・准教授, 嶋永元裕・水循環センター・教授, 田中源吾・水循環センター・教授, 吉川晟弘・水循環センター・准教授, 逸見泰久・水循環センター・特任教授		
協力教員氏名・所属・役職名	杉井 健・熊本大学文学部・教授		
対象学生・学年	学部 1~3 年生	開講期間	令和 9 年 2 月 28 日~ 3 月 6 日
開講大学・施設名	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 合津マリンステーション		
施設の住所	〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津 6061		
電話	0969-56-0277	F a x	0969-56-3740
e-mail	publect-ams@kmm.kumamoto-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/marine/aizu_marine_station/">https://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/marine/aizu_marine_station/</a>
交通案内	熊本市内の熊本桜町バスターミナル, または J R 熊本駅前から, 天草 (本渡) 行きのバス (あまくさ号) に乗車し「前島」下車。徒歩 5 分。あまくさ号は 1 時間または 30 分間隔で運行。熊本駅前から約 1 時間半。空港からは, 桜町バスターミナルで乗り換える。		
費用	12,000 円程度 (食費・宿泊費など。残金は返却する)		
授業科目名	臨海実習 II		
単位数	2 単位	定員数	12 名
授業料の徴収について	公立・私立大学の学生で, 単位取得を希望する学生については, 授業料を徴収する。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	申込開始日 (1/6) 10 時よりフォームにて申込後 (先着順で可否を決定する: 定員に達すると, フォームに入力・送信することはできません), 各自の所属大学の教務課を通して, 熊本大学に願書を提出してください。 申込フォーム: <a href="https://forms.gle/4vFQZWFQWXC5WNrZ9">https://forms.gle/4vFQZWFQWXC5WNrZ9</a>		
選抜結果連絡法	フォーム送信後に担当教員から受講可否の連絡をします。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	大学公開実習 D (行動生態学・生物多様性学)		
実習内容：海洋生態学野外実習 (状況により予定が変更される場合がある。下記 Web Site などで確認する事)			
<p>※生態学の分野横断的な動物行動学，生物多様性学，沿岸景観生態学を総合的に学ぶ</p> <p>(1) 潮間帯に生息する甲殻類，貝類，刺胞動物がどのような生物間相互作用（共生関係）を築いているのかを予想し，近縁種との形態比較や当該種の行動を観察することで，それを検証する（行動生態学）。</p> <p>(2) ドローンを使って，干潟生態系と海草藻場生態系の生物の分布を推定する（1班（3名程度）に1台のドローンを使用）。藻場・海草場において生育範囲をトレースするとともに，干潟生態系において有明海特産種・準特産種（シオマネキなど）を対象に，軟泥で立ち入ることが難しい干潟生物の分布を，ドローンを使って探索する（沿岸景観生態学）。</p> <p>(3) 干潟や，海草藻場（アマモ場）に蝟集する魚類や小型無脊椎動物を採集し群集構造の空間変異を解明する（生物多様性学）。</p> <p>※野外実験・室内実験の合間には，ウミホタルやミナミハンドウイルカ（ドローンによる撮影）などの生態観察も行う予定である。詳しい実習内容や持ち物等については実施要項や，下記のホームページを確認すること。なお，これらの実習内容は天候などによって，臨機応変に変更する場合がある。</p>			
実習内容キーワード	ヤドカリ，資源競争，海草藻場，有明海特産種，ドローン，ミナミハンドウイルカ，ハクセンシオマネキ		
担当教員氏名・所属・役職名	吉川晟弘・水循環センター・准教授，逸見泰久・水循環センター・特任教授，嶋永元裕・水循環センター・教授，田中源吾・水循環センター・教授，山田勝雅・水循環センター・准教授		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	学部 1～3 年生	開講期間	令和 9 年 3 月 19 日～ 3 月 25 日
開講大学・施設名	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 合津マリンステーション		
施設の住所	〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津 6061		
電話	0969-56-0277	F a x	0969-56-3740
e-mail	publect-ams@kmm.kumamoto-u.ac.jp	Web Site	<a href="https://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/marine/aizu_marine_station/">https://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/marine/aizu_marine_station/</a>
交通案内	熊本市内の熊本桜町バスターミナル，または J R 熊本駅前から，天草（本渡）行きのバス（あまくさ号）に乗り「前島」下車。徒歩 5 分。あまくさ号は 1 時間または 30 分間隔で運行。熊本駅前から約 1 時間半。空港からは，桜町バスターミナルで乗り換える。		
費用	12,000 円程度（食費・宿泊費など。残金は返却する）		
授業科目名	臨海実習 II		
単位数	2 単位	定員数	12 名
授業料の徴収について	公立・私立大学の学生で，単位取得を希望する学生については，授業料を徴収する。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	申込開始日（1/6）10 時よりフォームにて申込後（先着順で可否を決定する：定員に達すると，フォームに入力・送信することはできません），各自の所属大学の教務課を通して，熊本大学に願書を提出してください。 申込フォーム： <a href="https://forms.gle/G5AnPWKzX5JEJw7u5">https://forms.gle/G5AnPWKzX5JEJw7u5</a>		
選抜結果連絡法	フォーム送信後に担当教員から受講可否の連絡をします。		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	沿岸海洋生態系の環境と生物多様性・生態学コース		
<b>実習内容</b> 亜熱帯と温帯双方の環境的特長を有する天草近海にはきわめて豊富な海洋生物相が存在し、特に有明海の入り口に位置する天草下島では外洋環境と内湾環境に適応した双方の生物群を観察することができる。 本実習では、環境に応じた様々な調査・採集方法（定量採集、行動観察、シュノーケリング、調査船による採集等）を用いて海洋生物群集を採集・観察し、データ解析をとおして生物と環境の関係を知ると共に海洋生物の多様性と生態に関する理解を深める。対象となる環境/生物群集（予定）は次のとおりである。 (1) 潮間帯（岩礁、転石、砂質干潟） (2) 潮下帯（サンゴ群集、アマモ場、藻場、砂泥底） その他 イルカの行動観察、ウミホタルの採集と観察			
実習内容キーワード	生物多様性、群集、潮間帯、サンゴ、シュノーケリング、イルカ		
担当教員氏名・所属・役職名	新垣誠司・九州大学大学院理学研究院・准教授 NiNiWin・九州大学大学院理学研究院・助教（下記メール連絡先）		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	学部 2 年生以上 (院生も可)	開講期間	2026 年 8 月 26 日 (水) ~ 9 月 2 日 (水)
開講大学・施設名	九州大学・理学部附属天草臨海実験所		
施設の住所	〒863-2507 熊本県天草郡苓北町富岡 2231 番地		
電話	0969-35-0003	F a x	0969-35-2413
e-mail	niniw@ambl-ku.jp	Web Site	http://ambl-ku.jp/
交通案内	熊本市内<バス・120-140 分>本渡市<バス・60 分>富岡一丁目<徒歩 5 分> 長崎市内<バス・30 分>茂木港<高速艇・40 分>富岡港<徒歩 7 分> など 詳細は HP 参照、またはメールで問い合わせ下さい。		
費用	20,000 円 (7 泊 8 日分の宿泊費・食費等)		
授業科目名	臨海実験 II		
単位数	2 単位	定員数	7 名
授業料の徴収について	徴収しない		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	定員を超えた場合は抽選とする。2026 年 6 月 19 日 (金) 申込〆切。		
選抜結果連絡法	所属大学事務へ通知すると共に、申込学生にはメールで連絡		

## 令和 8 年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	沿岸海洋生態系の環境と生物多様性・基礎コース		
実習内容	<p>亜熱帯と温帯双方の環境的特長を有する天草近海にはきわめて豊富な海洋生物相が存在し、特に有明海の入り口に位置する天草下島では外洋環境と内湾環境に適応した双方の生物群を観察することができる。</p> <p>本実習は、天草下島の様々な沿岸環境において生物を採集・観察し、海洋生物の多様性に関する理解を深めることを目的とする。春期は、昼間の干満差が一年で最も大きく、また多くの海藻類が繁茂するなど、多様な生物群集を観察する良い条件が整っている。夏期に当実験所で実施している「生態学コース」とはひと味違った沿岸環境と生物群集の多様性に関する基礎的な内容となっている。</p> <p>(1) 潮間帯での採集（岩礁、転石、干潟）、(2) 船舶による採集（プランクトン、ドレッジ）  (3) 海藻および動物の形態分類、(4) イルカの行動観察</p>		
実習内容キーワード	沿岸生態系、生物多様性、潮間帯、プランクトン、ドレッジ、磯採集		
担当教員氏名・ 所属・役職名	新垣誠司・九州大学大学院理学研究院・准教授 NiNiWin・九州大学大学院理学研究院・助教（下記メール連絡先）		
協力教員氏名・ 所属・役職名			
対象学生・学年	学部生 (院生も可)	開講期間	2027年3月5日(金)～ 3月12日(金)
開講大学・施設名	九州大学・理学部附属天草臨海実験所		
施設の住所	〒863-2507 熊本県天草郡苓北町富岡 2231 番地		
電話	0969-35-0003	F a x	0969-35-2413
e-mail	niniw@ambl-ku.jp	Web Site	http://ambl-ku.jp/
交通 案内	熊本市内<バス・120-140分>本渡市<バス・60分>富岡一丁目<徒歩5分> 長崎市内<バス・30分>茂木港<高速艇・40分>富岡港<徒歩7分> など 詳細はHP参照、またはメールで問い合わせ下さい。		
費用	20,000円（7泊8日分の宿泊費・食費等）		
授業科目名	臨海実験 I		
単位数	2単位	定員数	7名
授業料の徴収について	徴収しない		
受講生選抜基準と 申し込み締め切り	定員を超えた場合は抽選とする。2027年1月15日(金)申込〆切。		
選抜結果連絡法	所属大学事務へ通知すると共に、申込学生にはメールで連絡		

## 令和8年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	サンゴ礁生物学実習		
実習内容	<p>本実習は、サンゴ礁研究の入門的実習です。</p> <p>サンゴ礁に生息する生物を実際に観察することを中心に、サンゴ礁生態系の概要から、サンゴ礁を形成する造礁サンゴ、さらにサンゴと共生する褐虫藻に関する基礎的知見、ならびに本施設で行われている研究内容までを、野外観察、室内実習および講義を通じて理解することを目的とします。</p> <p><b>実習：</b>スノーケリングによるサンゴ礁生物の観察、サンゴ礁生物の生態学的調査、褐虫藻の観察、サンゴの形態観察、ならびに基礎的なゲノム解析および形態解析に基づく分類などを行います。</p> <p><b>講義：</b>サンゴ礁生態学、サンゴ礁生物学、サンゴ礁と気候変動、サンゴの生殖生物学などを扱います。</p>		
実習内容キーワード	サンゴ礁, 野外観察, 褐虫藻, 生活史, 生殖, ゲノム		
担当教員氏名・所属・役職名	高橋俊一・琉球大学熱帯生物圏研究センター・教授 野澤洋耕・琉球大学熱帯生物圏研究センター・教授 波利井佐紀・琉球大学熱帯生物圏研究センター・教授 守田昌哉・琉球大学熱帯生物圏研究センター・准教授		
協力教員氏名・所属・役職名			
対象学生・学年	学部学生・大学院生	開講期間	9月14日(月)～9月18日(金)
開講大学・施設名	琉球大学・熱帯生物圏研究センター・瀬底研究施設		
施設の住所	〒905-0227 沖縄県国頭郡本部町字瀬底 3422 番地		
電話	0980-47-2888	F a x	0980-47-4919
e-mail	morita@cs.u-ryukyu.ac.jp	Web Site	<a href="https://tbc.skr.u-ryukyu.ac.jp/sesoko/">https://tbc.skr.u-ryukyu.ac.jp/sesoko/</a>
交通案内	那覇空港からやんばる急行バスで「本部博物館前」下車、タクシーで10分(徒歩30分)。または、那覇空港から高速バス(系統番号111番)で名護バスターミナル下車後、名護バスターミナルから「伊豆味経由瀬底行(系統番号76番)」で終点下車(約1時間)、徒歩10分。名護からタクシーを利用すると約3000円。または、名護バスターミナルから「名護→本部→今帰仁(なきじん)(系統番号65番)」で第二浜崎下車(約45分)、徒歩30分、もしくはタクシーで10分。		
費用	約2万円(食費, 宿泊費, 旅行傷害保険料を含む。瀬底までの旅費が別途必要)		
授業科目名	サンゴ礁生物学実習(通常の授業科目ではありません)		
単位数	(なし)	定員数	20名
授業料の徴収について	徴収しない		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	申込時に「なぜサンゴ礁生物学実習に参加したいのか」についての小作文(長さは自由)を提出すること。その内容で選抜を行う。申込締め切りは6月末。なお実習前後の宿泊はできません。		
選抜結果連絡法	電子メールで通知する。		

## 実習内容キーワード索引

A	DNA 解析	28	外来生物	26
あ行	赤潮	54	霞ヶ浦	22, 27, 29
	アカテガニ	19	化石	55, 56
	アマモ場	7, 8	河川連続体概念	43
	有明海	54	褐虫藻	60
	有明海特産種	57	川	17
	アンモナイト	55	簡易掘削	27
	磯採集	15, 16, 17, 20, 34, 36, 46, 59	環境	17
	遺伝子	24	環境かく乱	18
	遺伝子発現解析	48	環境勾配	35
	イノセラムス	55	環境指標生物	43
	イルカ	58	環境適応	16, 18
	ウニ	14, 30, 31, 46	環形動物	37
	海草	40	岩礁	17
	海草藻場	57	岩礁潮間帯	5
	ウミホタル	54	間接発生	14
	ウミユリ	31	寒流域	7
	沿岸生態系	5, 6, 7, 44, 56, 59	木崎湖	22, 29
	大阪湾	44, 45	共生	56
か行	海岸環境の調査	19	共生細菌	33
	海産動物	39	漁業資源	26
	海産無脊椎動物	20, 33	棘皮動物	30, 37, 48, 49
	海水環境	45	魚卵仔稚魚	53
	海藻	40, 42, 44, 53	魚類	25, 28, 30, 46
	海藻類	9, 10, 11, 12	クマムシ	54
	海底堆積物	45	群集	58
	海浜植物	40	群体	31
	解剖	37	蛍光顕微鏡	11
	海洋環境	42, 54	形態	15, 16, 37, 38, 40
	海洋観測	15, 45, 53	形態学	32
	海洋酸性化	30	形態観察	9, 10
	海洋生態学	35	系統樹	39
	海洋バクテリア	45	系統進化	34, 47
	海洋哺乳類	6	系統発生	46
	海洋哺乳類・海鳥	7	系統分類	15, 16

	ゲノム	60		諏訪湖	22, 29
	ゲノム解析	49		諏訪湖の成り立ち	23
	ゲノム解析	49		生活史	60
	ゲノム編集	30, 49		生痕化石	27
	光合成色素	10, 11, 42		精子運動	30
	行動	18, 38		生殖	60
	行動内分泌	46		生態	37, 38, 40
	湖沼,	21, 24		生態学	13
	湖沼環境	26		生態系	17, 34
	湖沼生態系	25		生態系機能	6
	古第三紀	55		生態系サービス	6
	古墳	56		生態系のつながり	8, 41
	コンブ藻場	5		生態調査	10
さ行	在来生物群集	26		生物機能の多様性	18
	里山	17		生物群集	7, 8,
	サンゴ	31, 58		生物採集	47
	サンゴ礁	60		生物相	41
	シアノバクテリア	28		生物多様性	6, 7, 9, 10, 12, 13, 15, 17, 26, 32, 34, 36, 43, 46, 47, 58, 59
	シグナル伝達	18		生理実験	12
	資源競争	57		脊索動物	48, 49
	自然史学	31		節足動物	37
	実験デザイン	35		船上調査	25, 27
	刺胞動物	37		ゾエアの観察	19
	集水域生態系	43, 44		組織・細胞	42
	受精	48, 49	た行	堆積過程	27
	種多様性	16		堆積構造	27
	シュノーケリング	15, 16, 17, 50, 51, 52, 58		堆積物	23, 27
	乗船	20		代替生殖戦術	51
	植物プランクトン	7, 42, 54		タイドプール	40
	人為攪乱	43		単藻培養法	12
	進化	15, 16, 38, 39, 48, 49		地形	27
	進化発生学	32, 33		地層	27, 55, 56
	新口動物	31, 48, 49		潮間帯	7, 13, 58, 59
	水質観測	23		長期モニタリング	6
	水質分析	22, 29, 41		底生生物群集	35
	スケーリング	50, 52			

底生動物	25		プランクトン	5, 8, 15, 16, 21, 25, 36, 41, 44, 53, 59
テーマ研究	38		分子系統	39
電子顕微鏡	11		分子系統解析	9
天然林	17		文理融合	56
動物生理学	50, 52		分類	11, 36, 37, 38
動物プランクトン	54		分類学	13
トキ	17		ベントス	16, 41, 44, 53
トリノアシ	31		ホヤ	31
トレッキング	17	ま行	マイクロクライメイト	35
ドレッジ	34, 36, 59		マボヤ	14
ドローン	57		湖	23
な行			水環境	21, 24
ナメクジウオ	31		水鳥	21
軟体動物	37, 39		ミトコンドリア DNA	24
は行			ミナミハンドウイルカ	54, 57
バイオアッセイ	44, 45		無菌操作法	12
配偶	51		無腸動物	48, 49
配偶様式	51		メイオベントス	36, 54
培地作製	12		野外観察	60
白亜紀	55, 56		野外調査	11, 22, 29, 47
ハクセンシオマネキ	57	や行	野外調査解析	7, 8
博物館	55		八代海	54
バクテリア	54		ヤドカリ	57
発生	18, 30, 46, 48, 49		有色溶存有機物 (CDOM)	8
発生運命決定	14		ユスリカ幼虫	28
発生学	32		幼生	30
発生生物学	14		ら行	
半索動物	48, 49		理科教育	50, 52
ビオトープの整備	19		陸と海の相互作用	5
比較湖沼学	22, 29		粒度分析	27
比較発生	33, 47, 48, 49		冷温帯寒流域	8
干潟	7, 54, 56			
人と自然との関わり	17			
標本作製	31			
フィールド調査	13			
富栄養湖	25			
父性解析	51			